決算プレゼンテーション資料

2027年3月期　第2四半期

アコム

2026年11月6日

免責事項

本資料の数値のうち、過去の事実以外の当社グループの計画、方針その他の記載にかかわるものは、本資料の発表日現在において入手可能な情報等に基づいて作成したものであります。しかしながら、当社グループの事業展開上リスクとなる可能性がある要素が複数存在しており、実際の業績等は大きく異なる可能性があります。

また、利息返還請求の動向は、外部環境の変化等に影響を受けやすいことから不確実性が高く、その影響として利息返還損失引当金繰入額を計上する場合があります。

最終の業績はこれらのリスクを含むさまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。

本資料における表記

L・C事業	ローン・クレジットカード事業
MUCG	エム・ユー信用保証
yoy	前年同期比または前期比
ytd	前期末比
(E)	見通し
EB、EASY BUY	EASY BUY Public Company Limited
ACF	ACOM CONSUMER FINANCE CORPORATION
ACM	ACOM (M) SDN. BHD.

本資料に関するお問い合わせ

アコム株式会社 広報・IR室
(03)6865-6474
ir@acom.co.jp

目次

01
第2四半期 決算概要

連結決算概要	4
中核3事業の決算概要	6
資本政策	12
新客数	14
不良債権	15
ローン・クレジットカード事業	16
海外金融事業	17
人的資本	18

02
第2四半期 決算補足

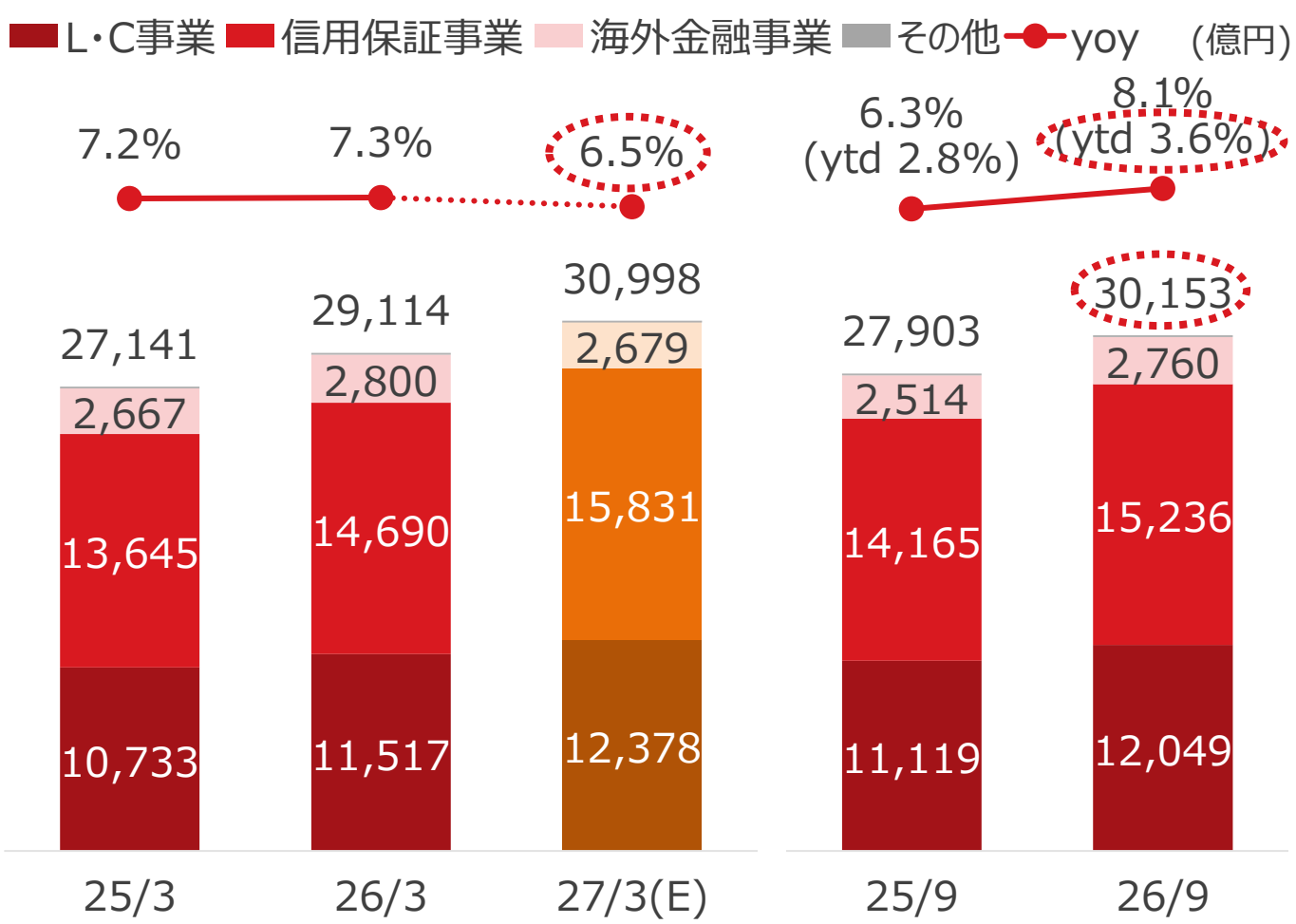
ローン・クレジットカード事業	20
信用保証事業	23
海外金融事業	25
利息返還の状況	29
貸倒関連費用	31
金融費用	33

Appendix

連結決算概要(業績)	36
市場規模の推移	37
2027年3月期 通期計画	39
利息返還の状況	41
事業別営業債権残高営業利益率(ROA)の目安	43
PBR・ROEの推移	44
企業価値向上ロジックツリー	45
金融詐欺被害防止に向けた取組み	46
中期経営計画	47

連結決算概要(業容)

- 国内事業の好調な新規集客および追加利用に加え、円安の為替影響により順調に業容拡大
- 連結営業債権残高は、前期比＋6.5%(＋約1,900億円)の通期計画に対して、前期末比＋3.6%(＋約1,000億円)の3兆153億円となり、初めて3兆円を突破



連結 営業債権残高	**3兆153億円**	(yoy＋8.1%)
ローン・クレジット カード事業	**1兆2,049億円**	(yoy＋8.4%)
信用保証事業	**1兆5,236億円**	(yoy＋7.6%)
海外金融事業	**2,760億円**	(yoy＋9.8%)

連結決算概要(業績)

- 営業収益は、業容拡大に加え、円安の為替影響を受けたことから計画比＋2.4%(前年同期比＋8.0%)の1,789億円
- 営業利益は、計画比＋10.8%(前年同期比＋6.0%)の572億円
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、計画比＋10.7%(前年同期比▲28.1%)の366億円

営業収益

2Q計画比 ＋2.4%

連結	**1,789億円**	(yoy＋8.0% 進捗率50.3%)
ローン・クレジットカード事業	**958億円**	(yoy＋6.6% 進捗率50.1%)
信用保証事業	**425億円**	(yoy＋7.0% 進捗率49.5%)
海外金融事業	**362億円**	(yoy＋11.4% 進捗率51.5%)

営業利益

2Q計画比 ＋10.8%

連結	**572億円**	(yoy＋6.0% 進捗率58.5%)
ローン・クレジットカード事業	**327億円**	(yoy＋7.1%)
信用保証事業	**102億円**	(yoy▲12.1%)
海外金融事業	**133億円**	(yoy＋22.1%)

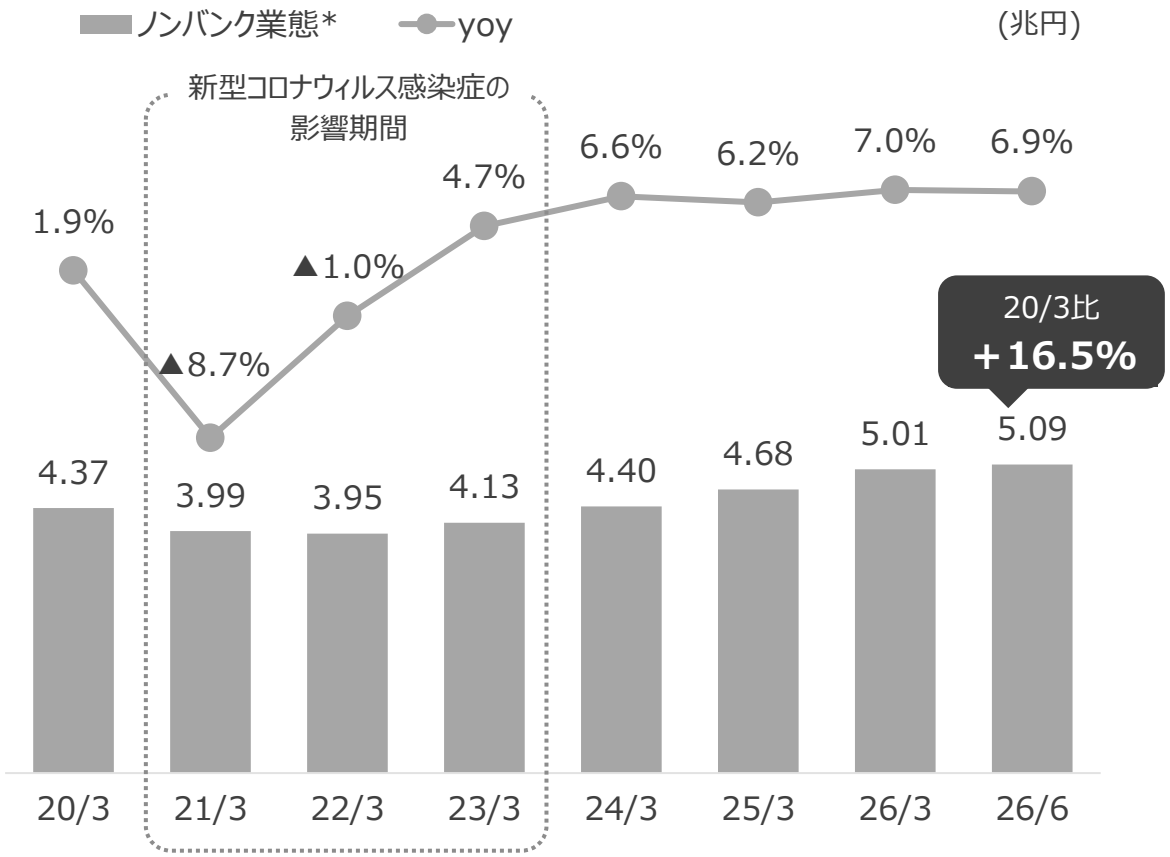
2Q計画比 ＋10.7%

親会社株主に帰属する**当期純利益**	**366億円**	(yoy▲28.1% 進捗率57.4%)

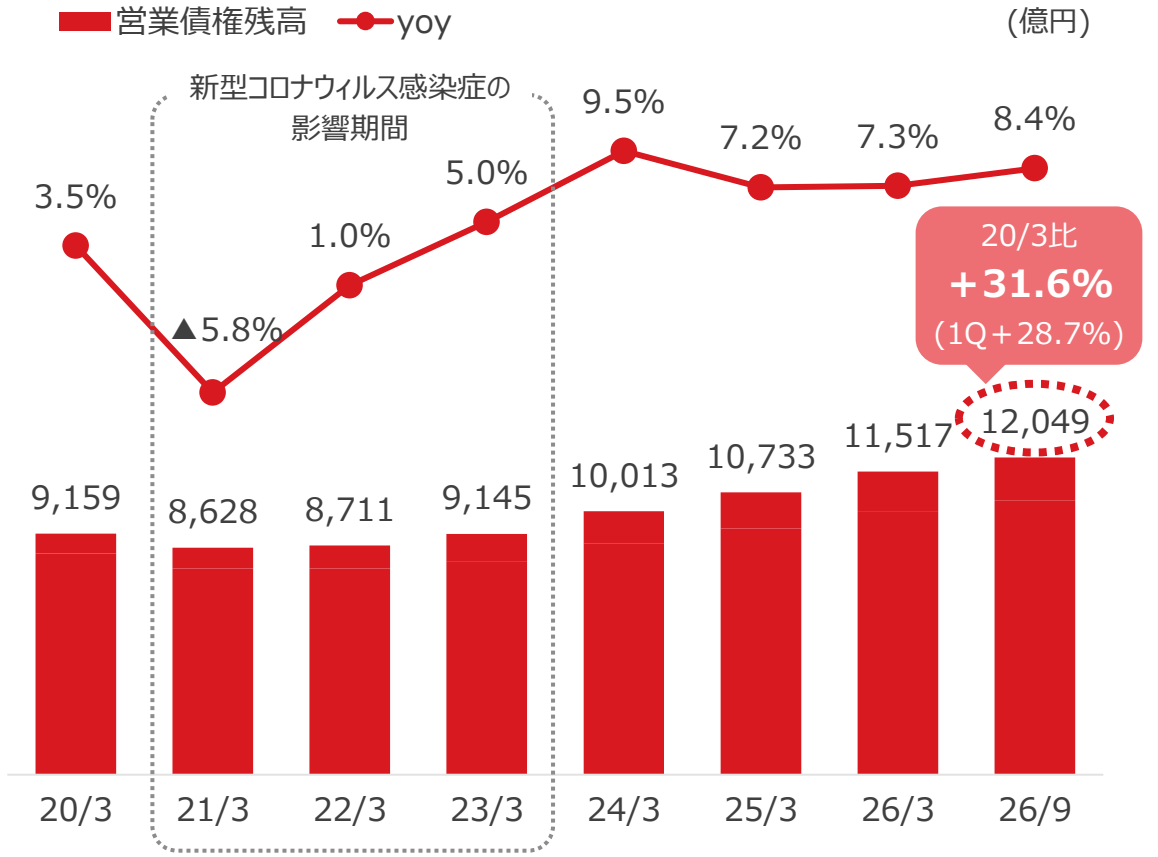
ローン・クレジットカード事業｜業容(マーケット比較)

- 個人向けローン市場におけるノンバンク業態*の市場規模は、2020年3月期比で＋16.5%拡大
- アコムのローン・クレジットカード事業は、市場の伸びを上回る同＋31.6%の業容拡大
- 当2Qの営業債権残高は、新規集客および既存顧客の利用が好調であったことから、前年同期比＋8.4%の1兆2,049億円

個人向けローン市場



ローン・クレジットカード事業(連結)

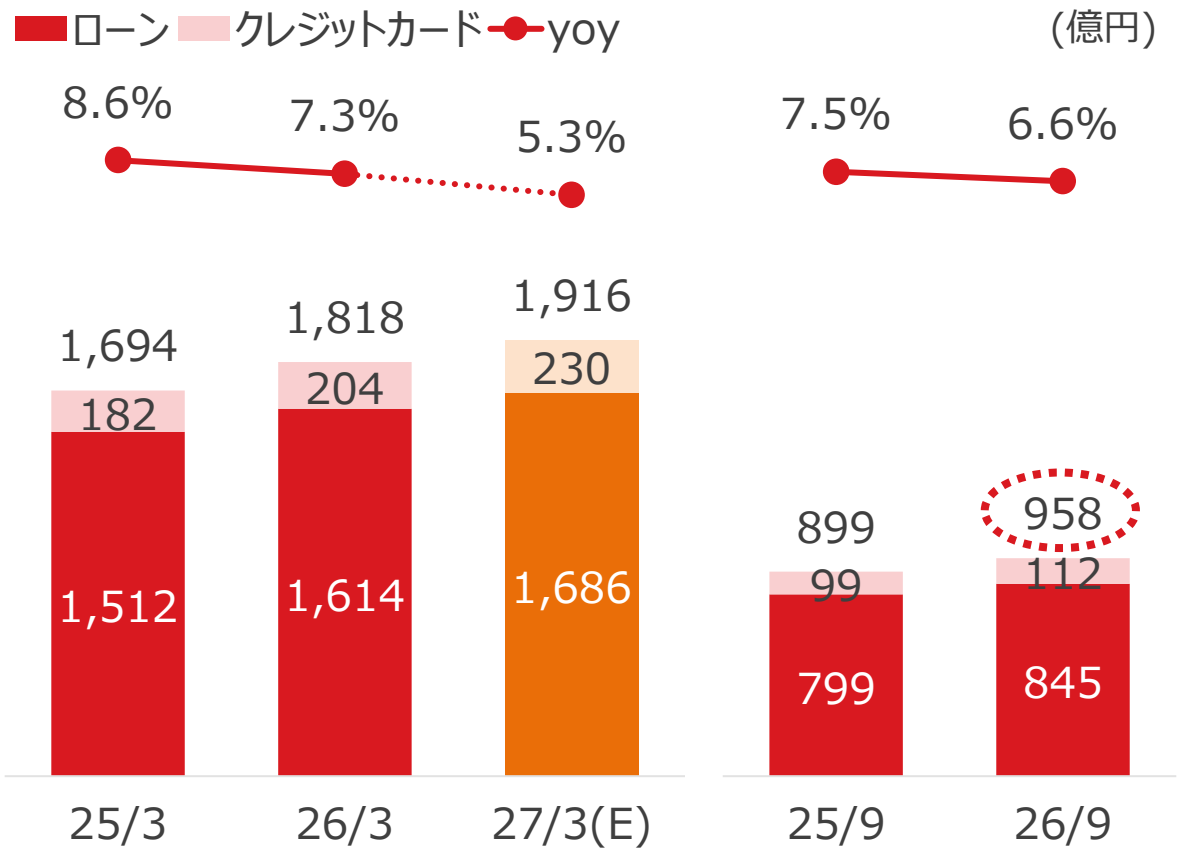


＊ ノンバンク業態は日本貸金業協会統計の営業貸付金残高（証書貸付を含む）、2026年6月数値は速報値

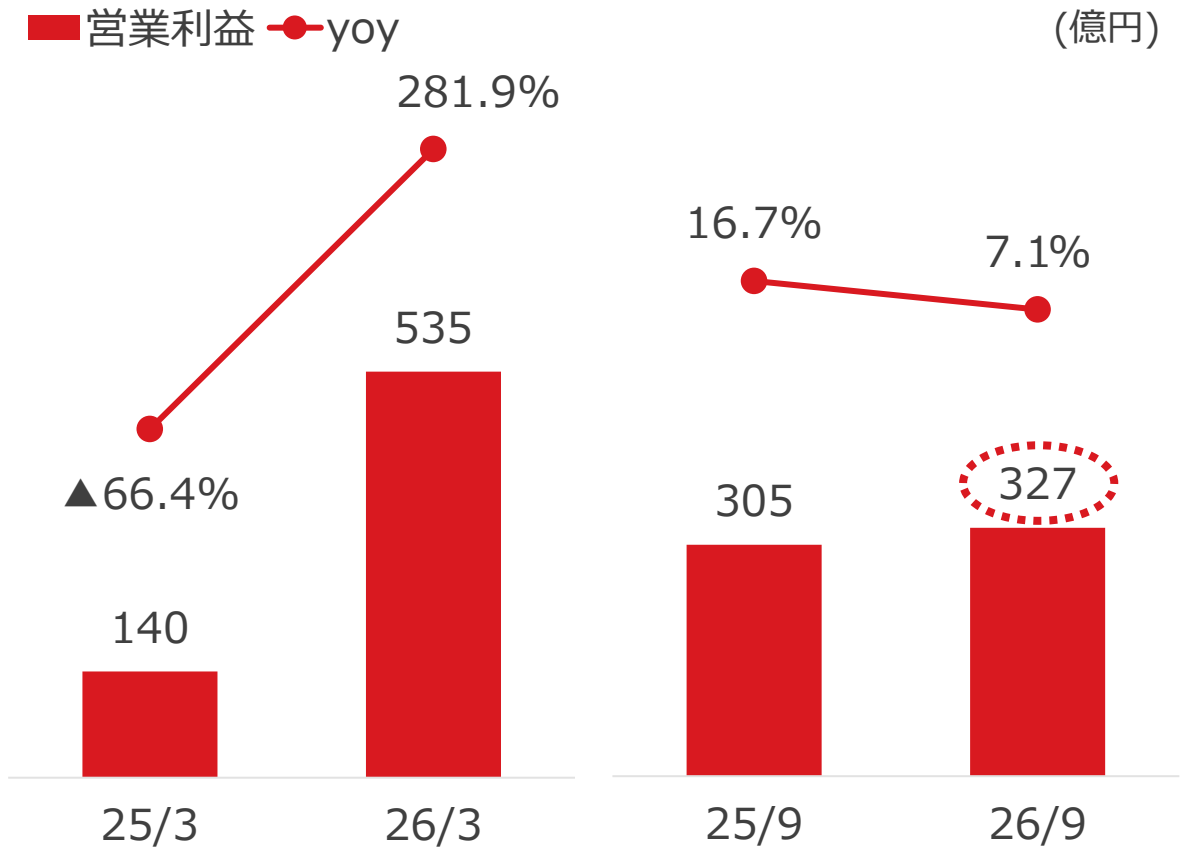
ローン・クレジットカード事業｜業績

- 営業収益は業容拡大を主因に、前年同期比＋6.6%の958億円
- 営業利益は、同＋7.1%の327億円

営業収益



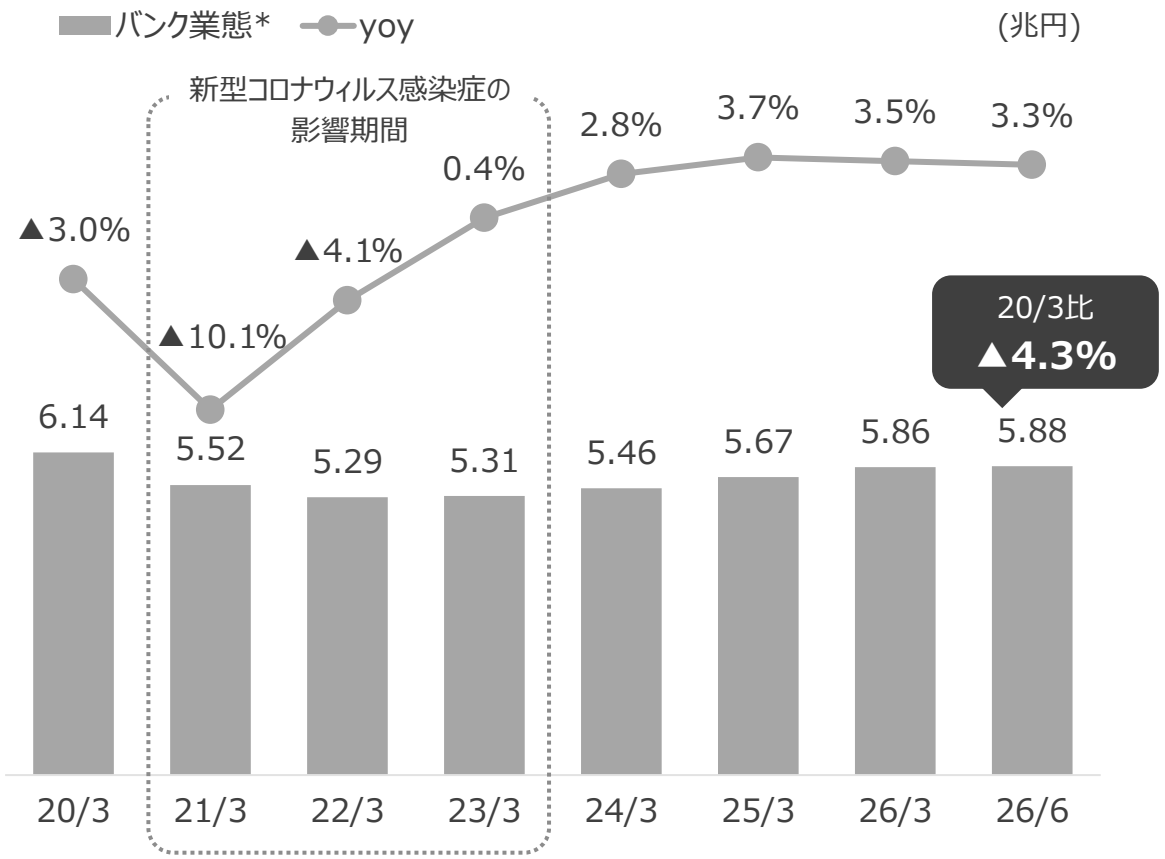
営業利益



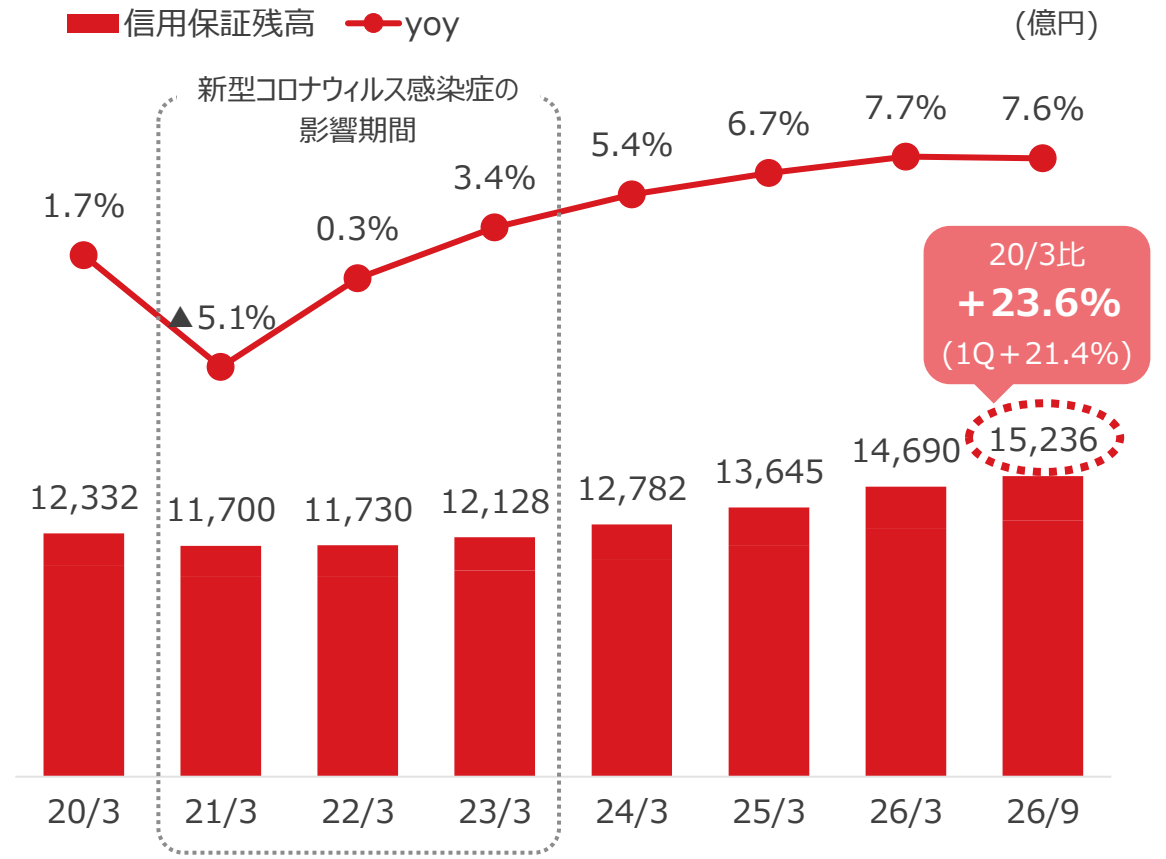
信用保証事業｜業容(マーケット比較)

- 個人向けローン市場におけるバンク業態*の市場規模は、2020年3月期比で▲4.3%の減少
- アコムの信用保証事業は、同＋23.6%の業容拡大
- 既存顧客の利用が好調であったことから、当2Qの信用保証残高は前年同期比＋7.6%の1兆5,236億円

個人向けローン市場



信用保証事業(連結)

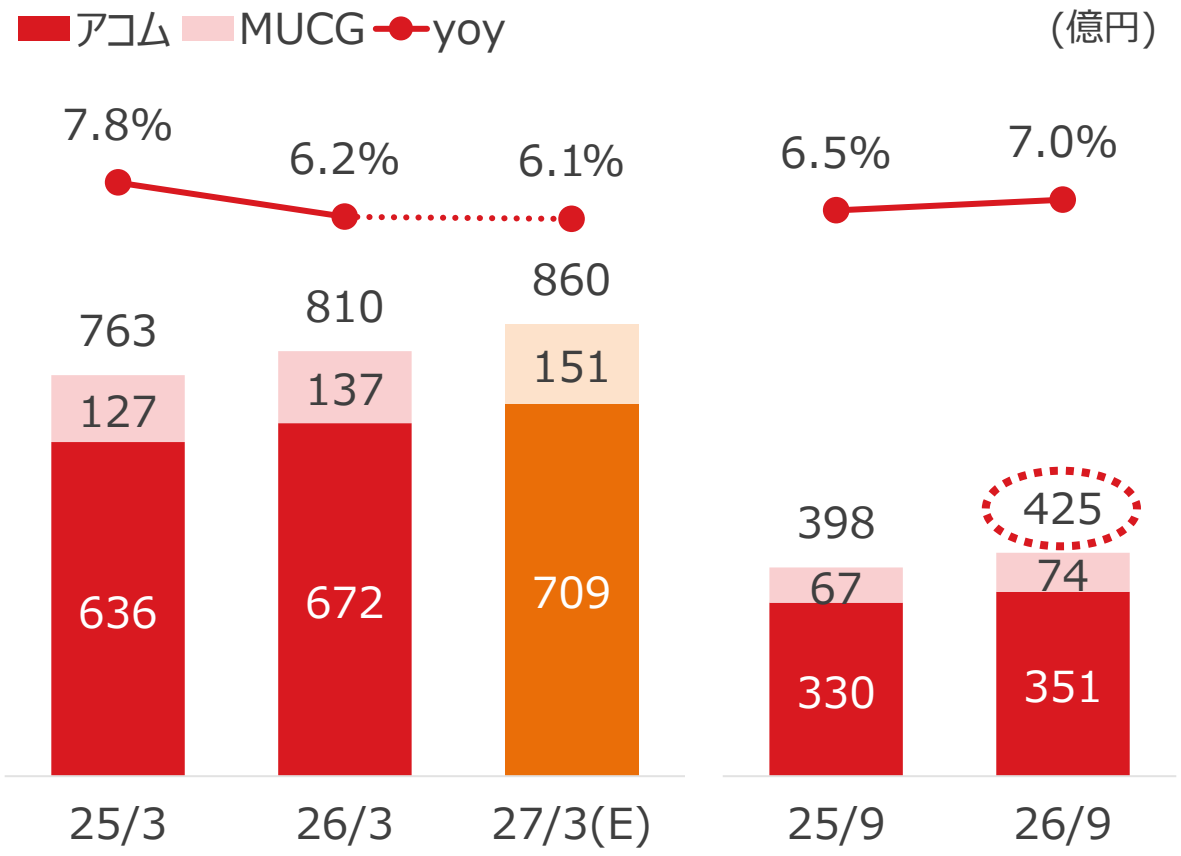


＊ バンク業態は日本銀行統計の国内銀行及び信用金庫の個人向けカードローン残高、2026年6月数値は速報値

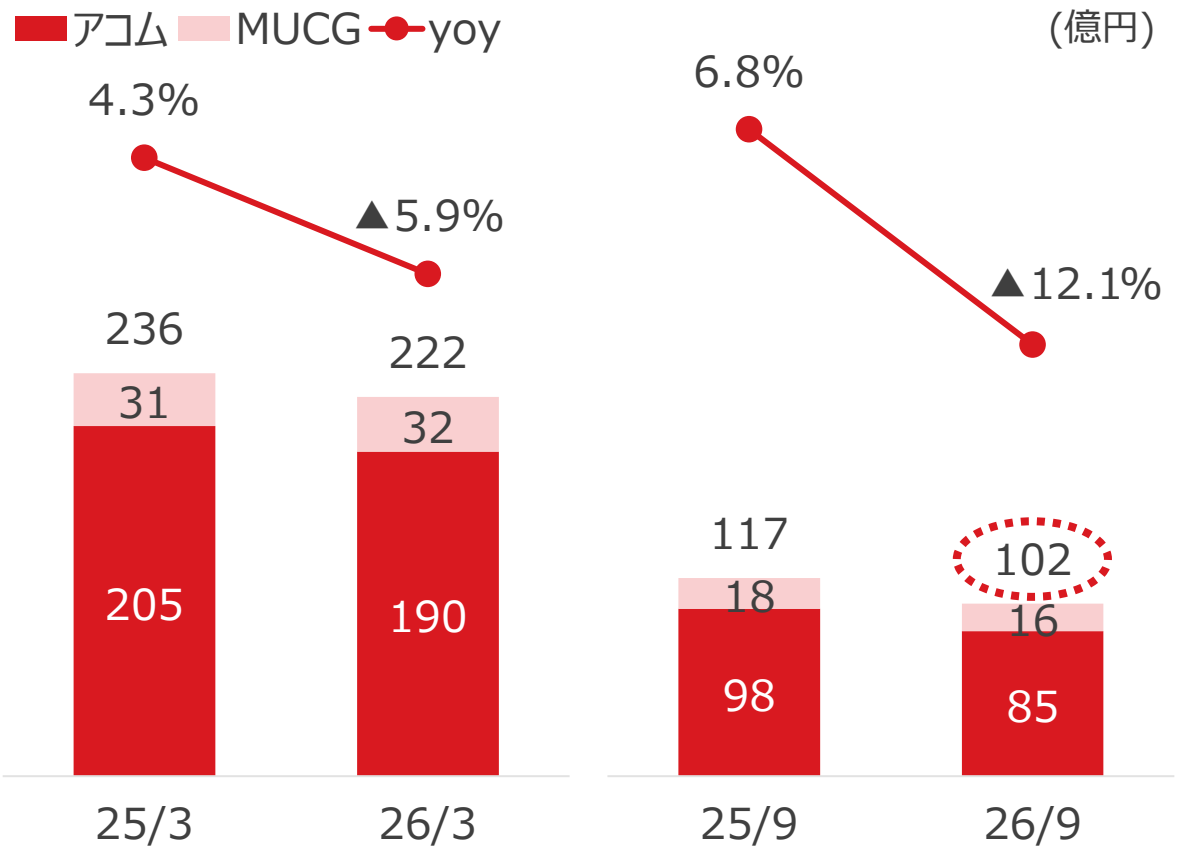
信用保証事業｜業績

- 営業収益は、業容拡大により、前年同期比＋7.0%の425億円
- 営業利益は、貸倒関連費用の増加を主因に、同▲12.1%の102億円

営業収益



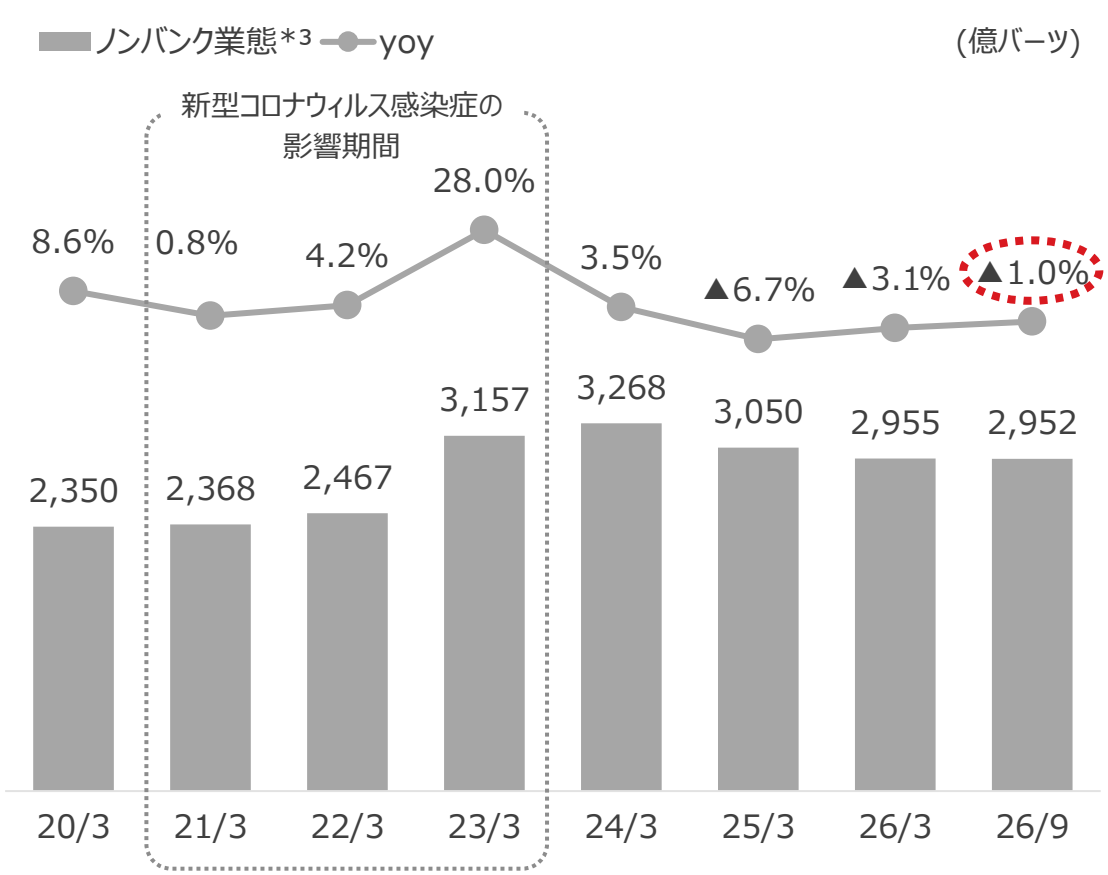
営業利益



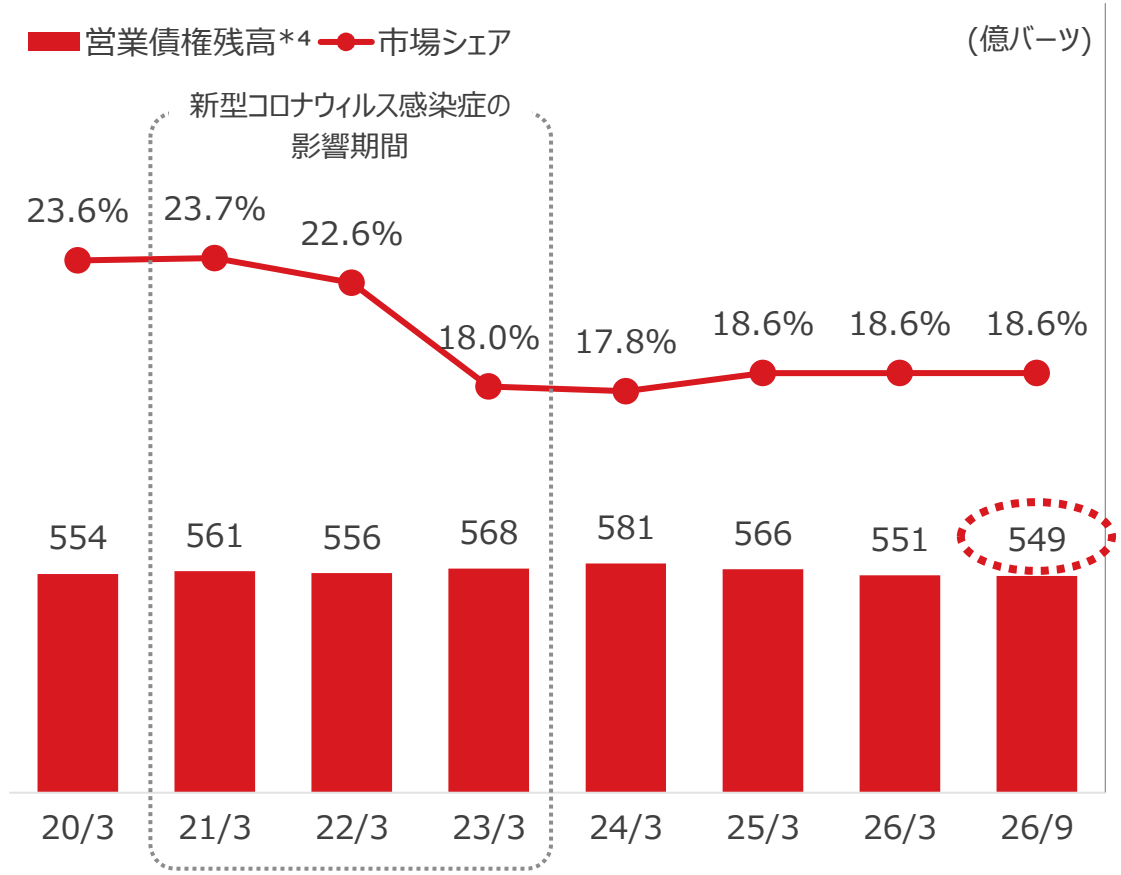
海外金融事業(EASY BUY)｜タイ国内における市場シェア

- タイ国内における個人向けローン市場のノンバンク業態は、前年同期比▲1.0%
- 新型コロナウイルス感染症に対する救済措置*1の終了や、融資規制*2などの影響を受けている債権の構成比が高まり、EASY BUYの営業債権残高の伸長余地は縮小しているものの、市場シェアを維持

個人向けローン市場(タイ)



EASY BUY(タイ)

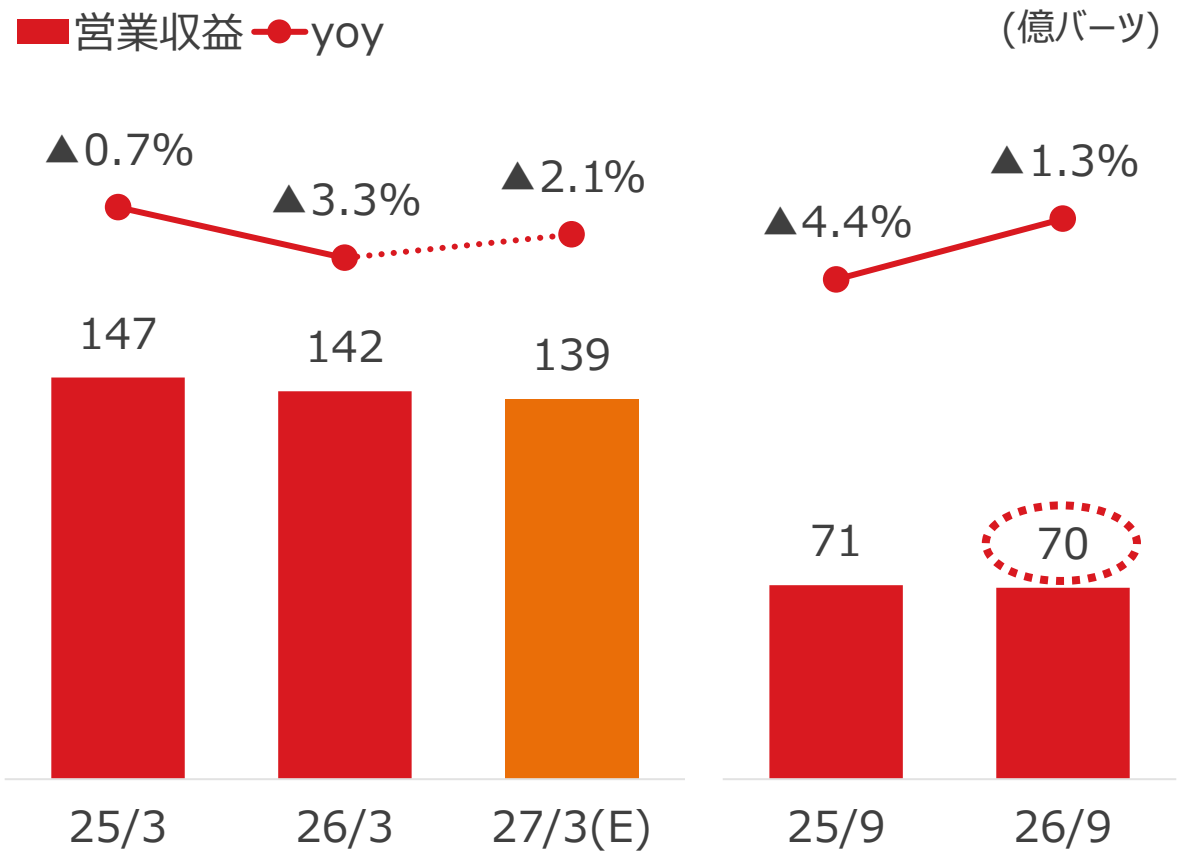


*1 与信枠の緩和、借入金融機関数の上限撤廃措置　*2 月収の1.5倍が極度額上限、借入上限3社　*3 ノンバンク業態はタイ中央銀行統計データ　*4 営業債権残高は営業貸付金残高と割賦売掛金残高の合計

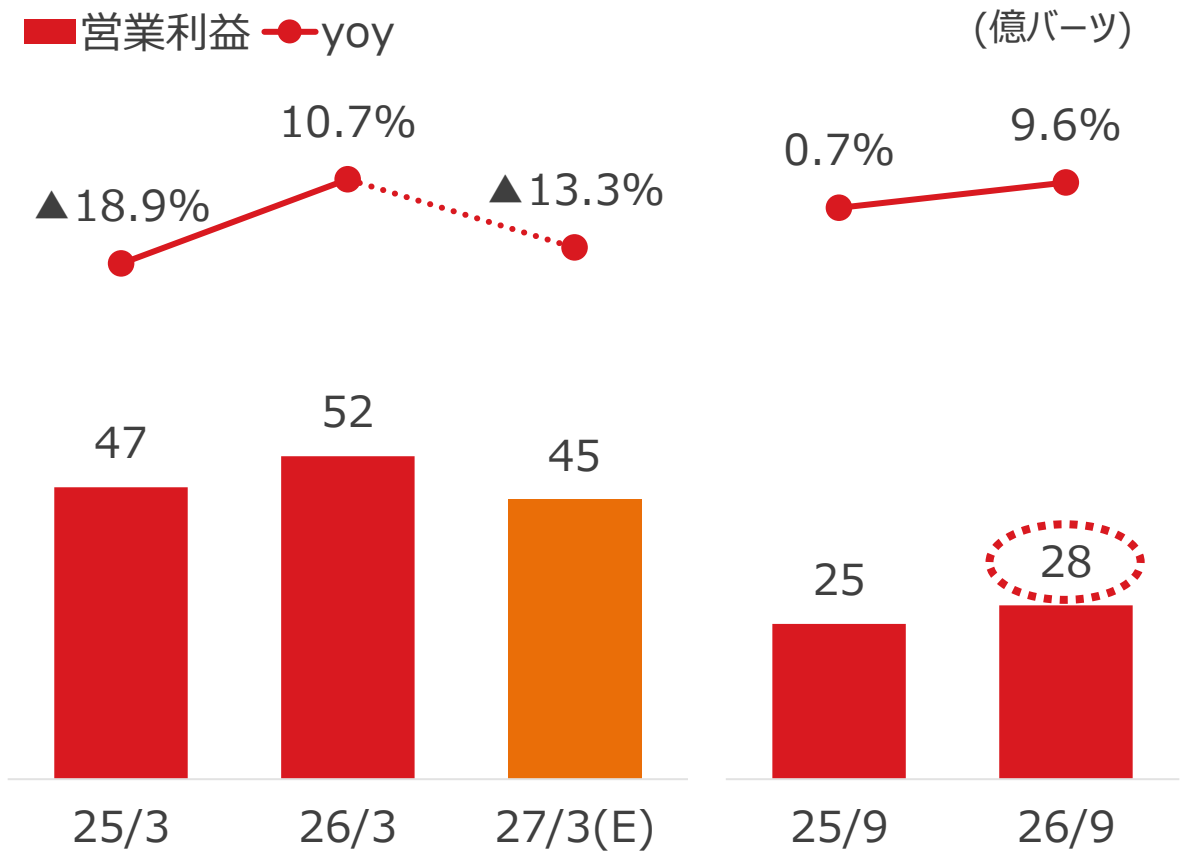
海外金融事業(EASY BUY)｜業績

- 営業収益は、前年同期比▲1.3%の70億バーツ
- 営業利益は、貸倒関連費用の減少を主因に、同＋9.6%の28億バーツ

営業収益



営業利益



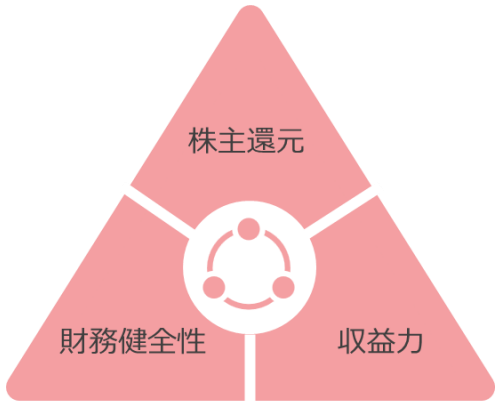
資本政策

資本政策の基本的な考え方

持続的な企業価値向上に向けて、財務健全性維持及び収益力強化を図り、安定的・継続的な株主配当を堅持する

2028年3月期末に目指す姿

自己資本比率*	**23%** 程度
ROE	**10%** 程度
配当性向	**50%** 程度



1株当たり配当額

22円 ／ 中間11円　期末11円 (予想)

2026年9月末時点

自己資本比率*　**23.2%**

目標とする23%達成

ROE　**10.1%**

営業収益：1,789億円　計画比＋2.4%
営業利益：572億円　計画比＋10.8%

配当性向　**54.0%** (通期予想)

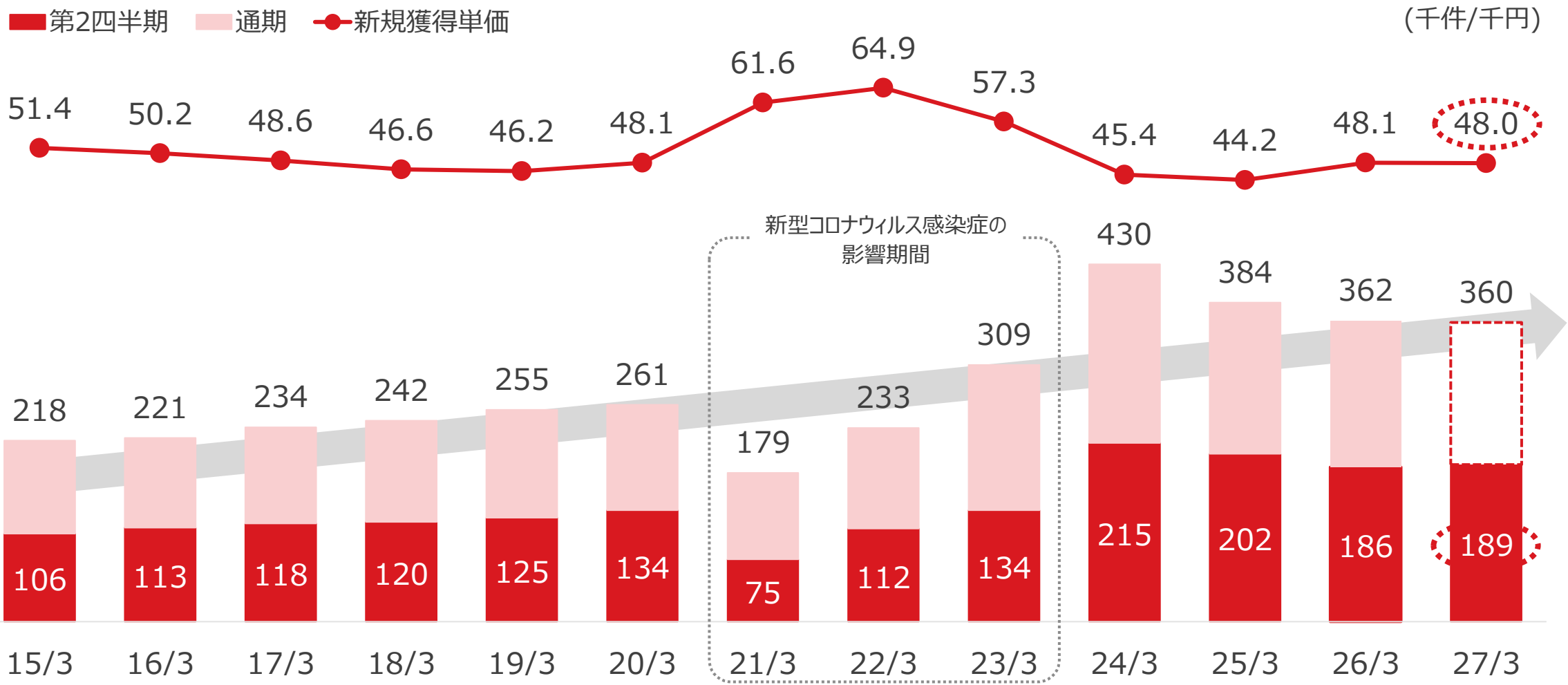
中間配当は予想通り11円

* 連結総資産に信用保証残高を加算して算出した自己資本比率

2027年3月期　第2四半期　トピックス

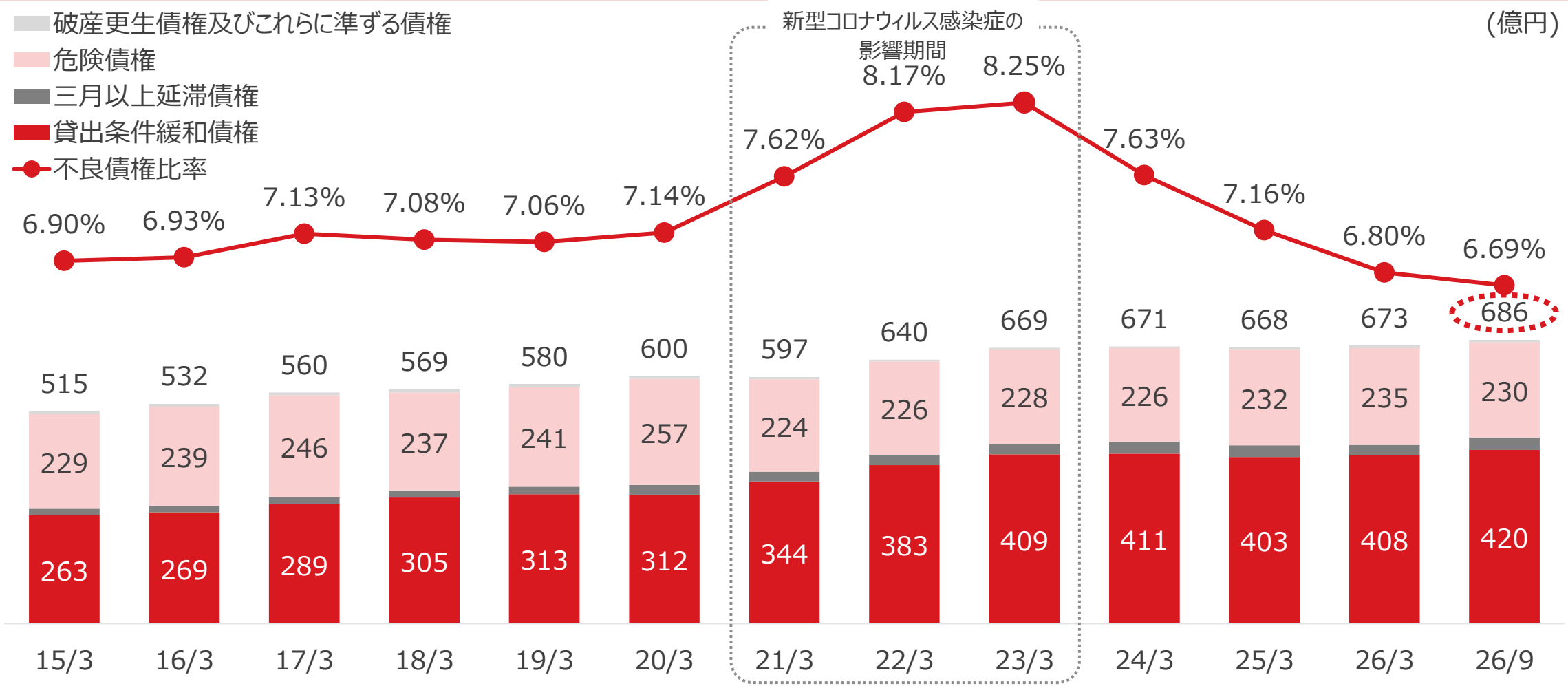
トピックス｜新客数

- 36万件の計画に対し、計画を上回って進捗(進捗率52.7%)
- 新規獲得単価は4万8千円



トピックス｜不良債権

- 不良債権残高は、686億円
- 債権の良化に伴い、不良債権比率は6.69%まで低下



トピックス｜ローン・クレジットカード事業

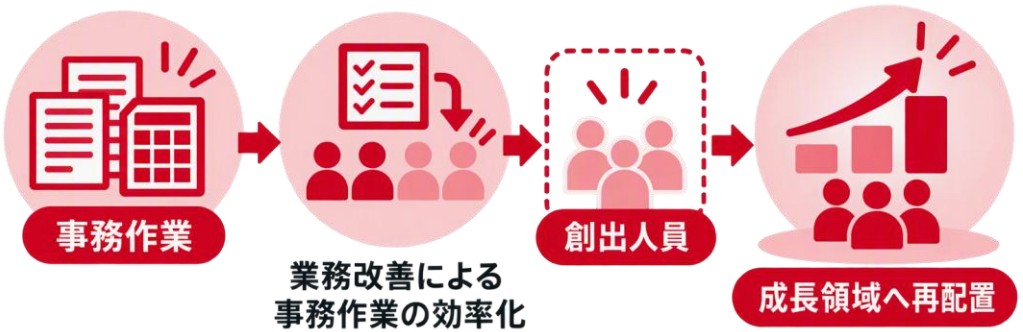
クレジット手数料率の改定



従来 **14.6%** → 新 **18.0%**

12月7日より、クレジット手数料率を引き上げ

業務改善・デジタル推進



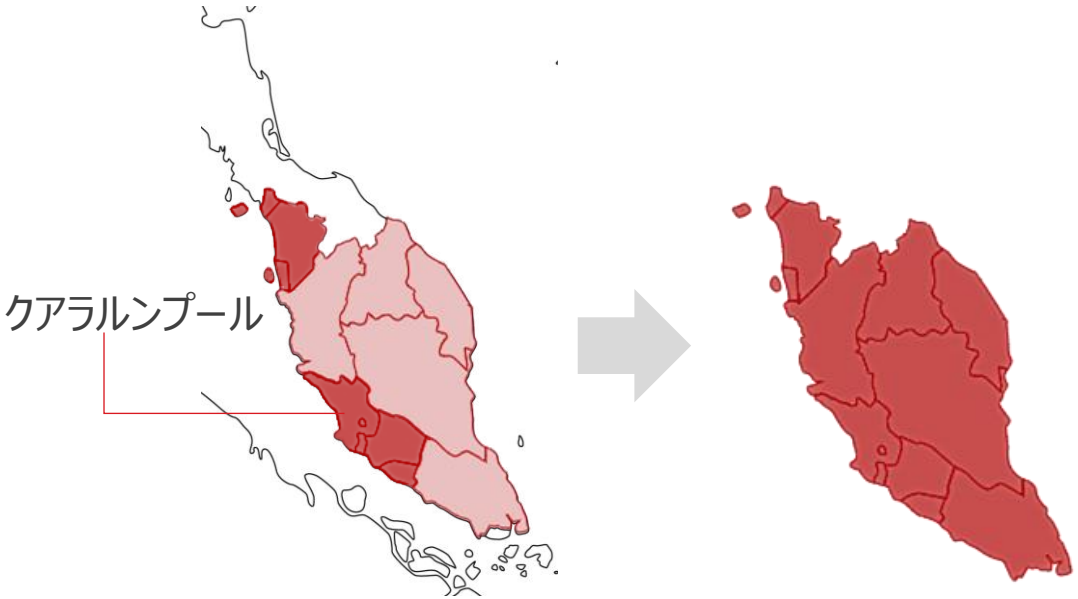
L・C事業においてBPR*による業務効率化を推進

創出人員は成長領域へ再配置

* Business Process Re-engineeringの略称

トピックス｜海外金融事業

ACM(マレーシア)｜集客エリア拡大



2026年7月より、集客エリアをマレー半島全域へ拡大

中計最終年度での単年度黒字を目指す

カンボジア王国への進出



左：アコム　太田常務 / 右：Prasethpheap Finance Plc　オーナー

2026年8月にマイクロファイナンス企業の

発行済株式全株を取得する契約を締結

トピックス｜人的資本

成長・挑戦機会の拡充

- ✓ 新規事業創出プログラムの実施
- ✓ 希望する部署・仕事に挑戦できる社内公募制度の導入

挑戦と成果に報いる制度

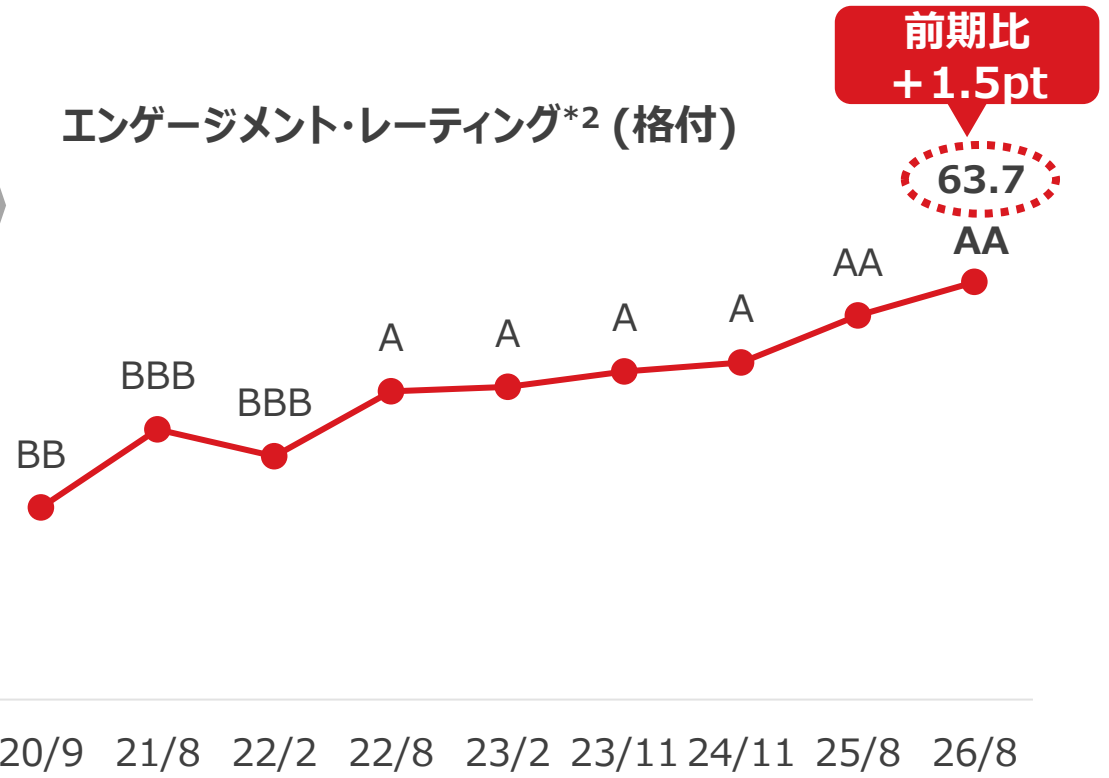
- ✓ 基本給および賞与における個人業績給の引き上げ
- ✓ チャレンジを評価する制度の導入

行動指針*1の共有と経営層との対話

- ✓ 社長と直接対話する機会の提供
- ✓ 行動指針浸透プログラムの実施

仕事満足度の向上を通じた

エンゲージメントスコアの上昇



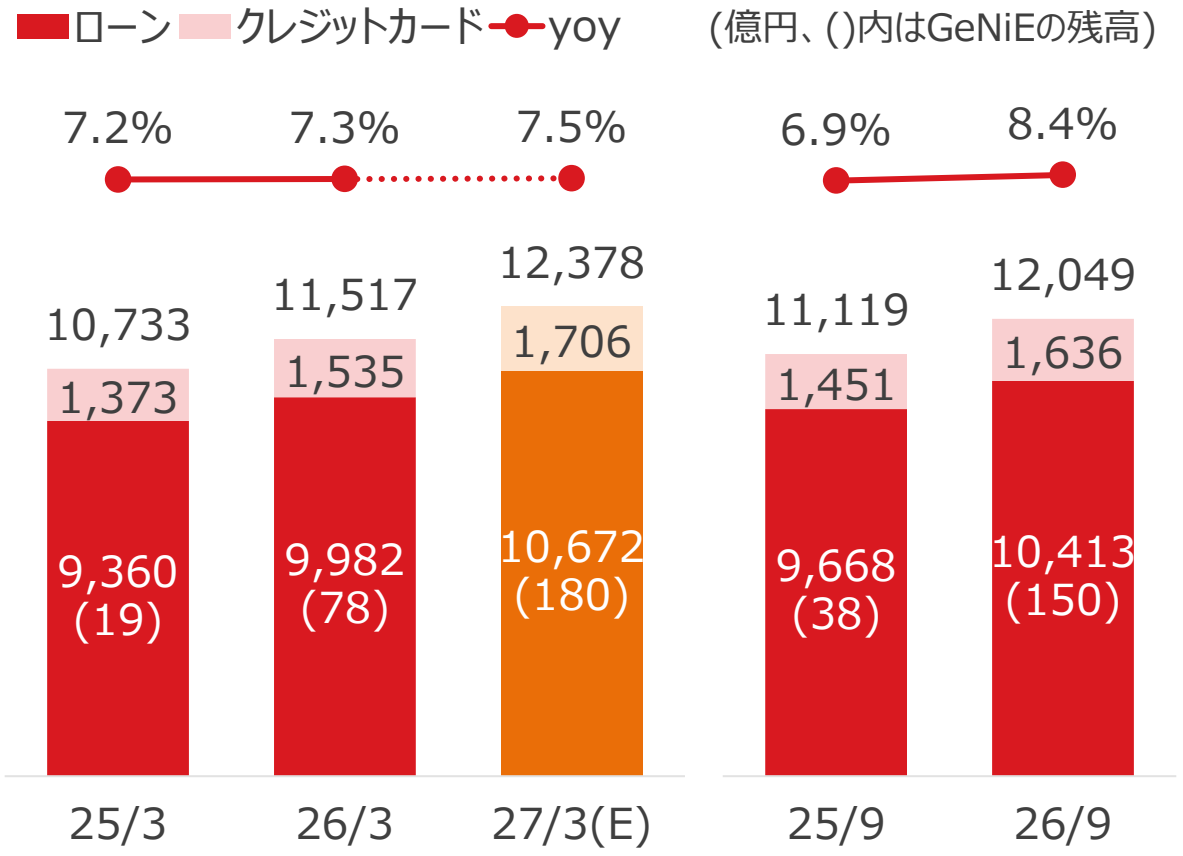
*1ビジョン達成に向け、社員がどう行動すべきかを表したもの　*2 株式会社リンクアンドモチベーションによる調査結果

2027年3月期　第2四半期　決算補足

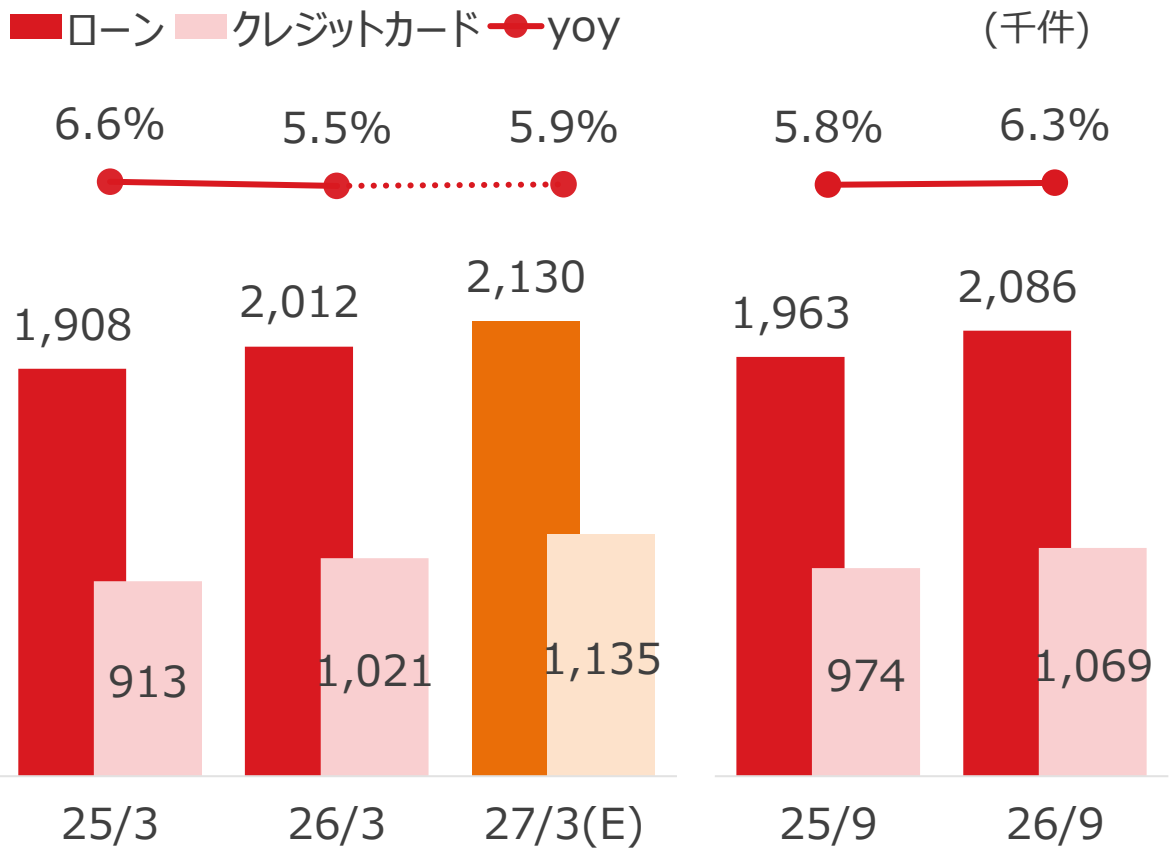
ローン・クレジットカード事業｜業容

- 新規集客および既存顧客の利用が好調であったことから、営業債権残高は前年同期比＋8.4%の1兆2,049億円
- 利用者数は同＋6.3%の2,086千件

営業債権残高



利用者数*

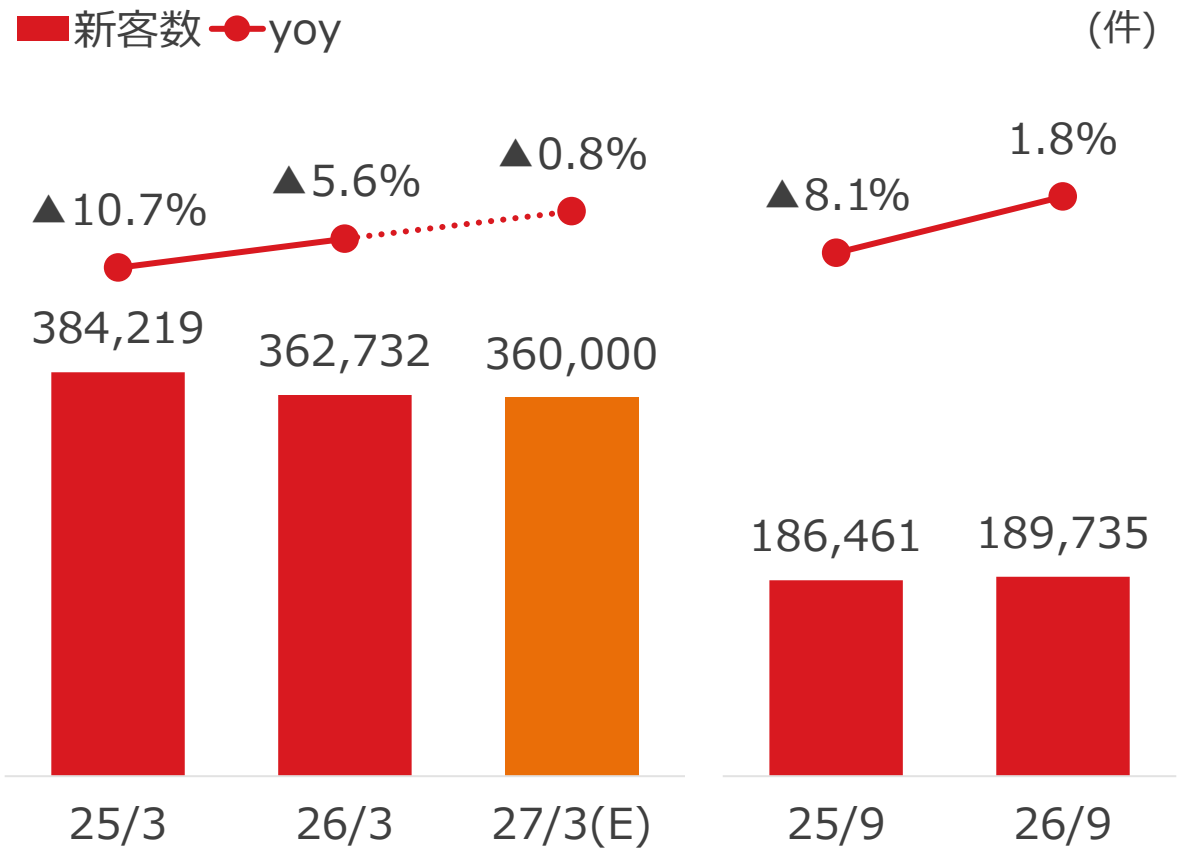


* クレジットカード事業の利用者数は、有効会員数

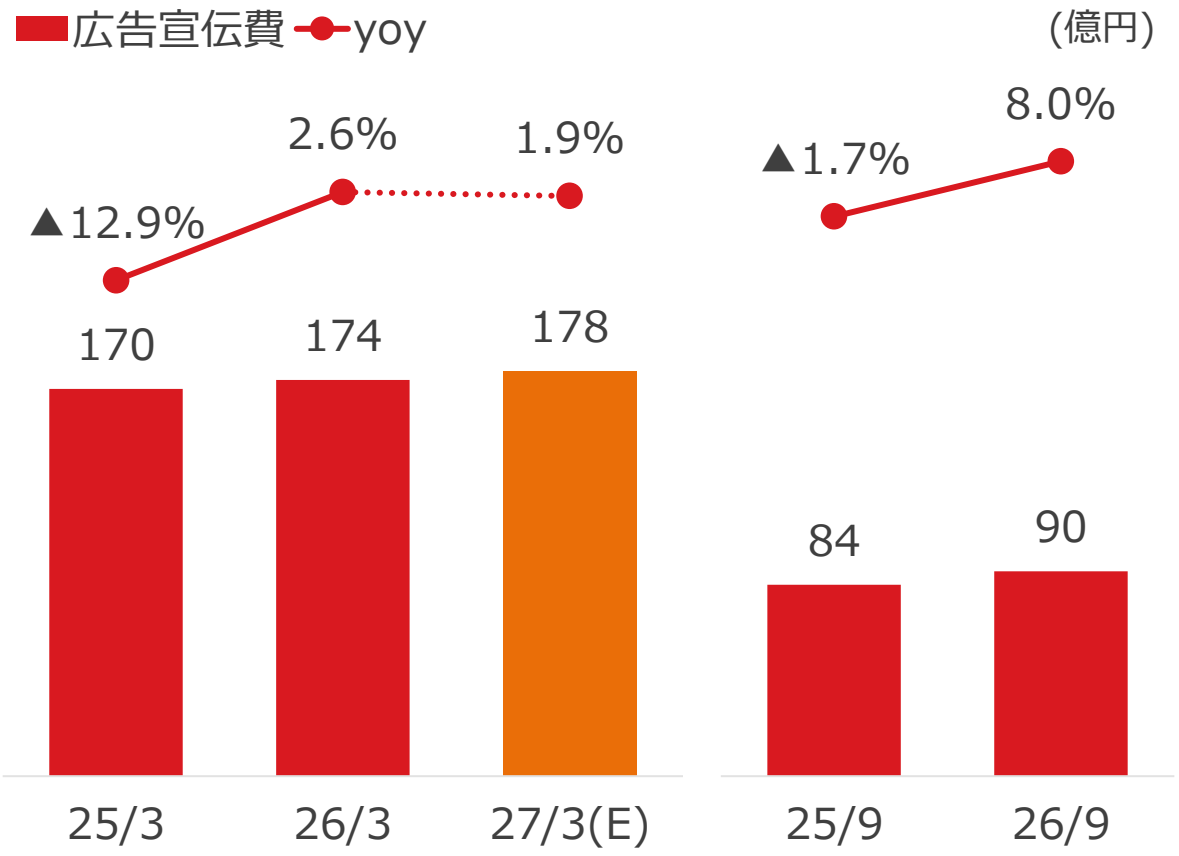
ローン・クレジットカード事業｜新客数(アコム)

- 新客数は、前年同期比＋1.8%の189,735件
- 広告宣伝費は、同＋8.0%の90億円

新客数(無担保)



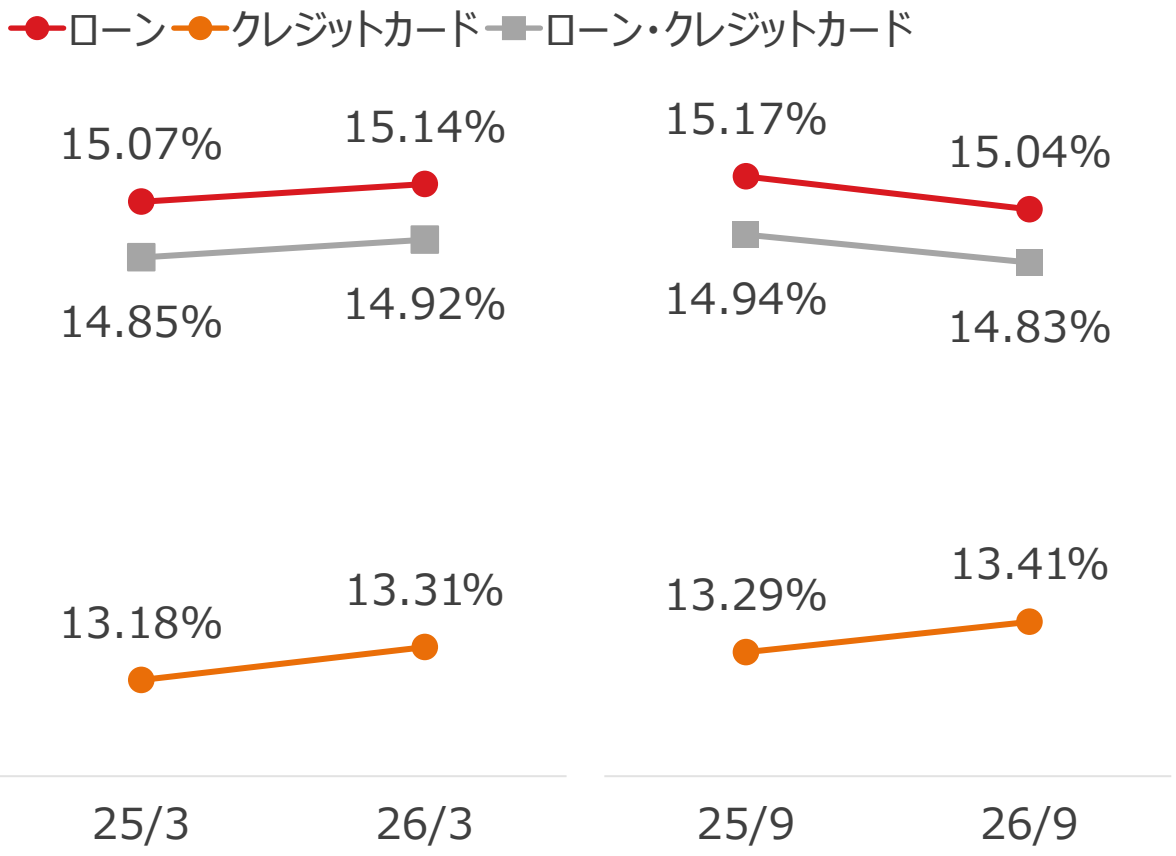
広告宣伝費(アコム)



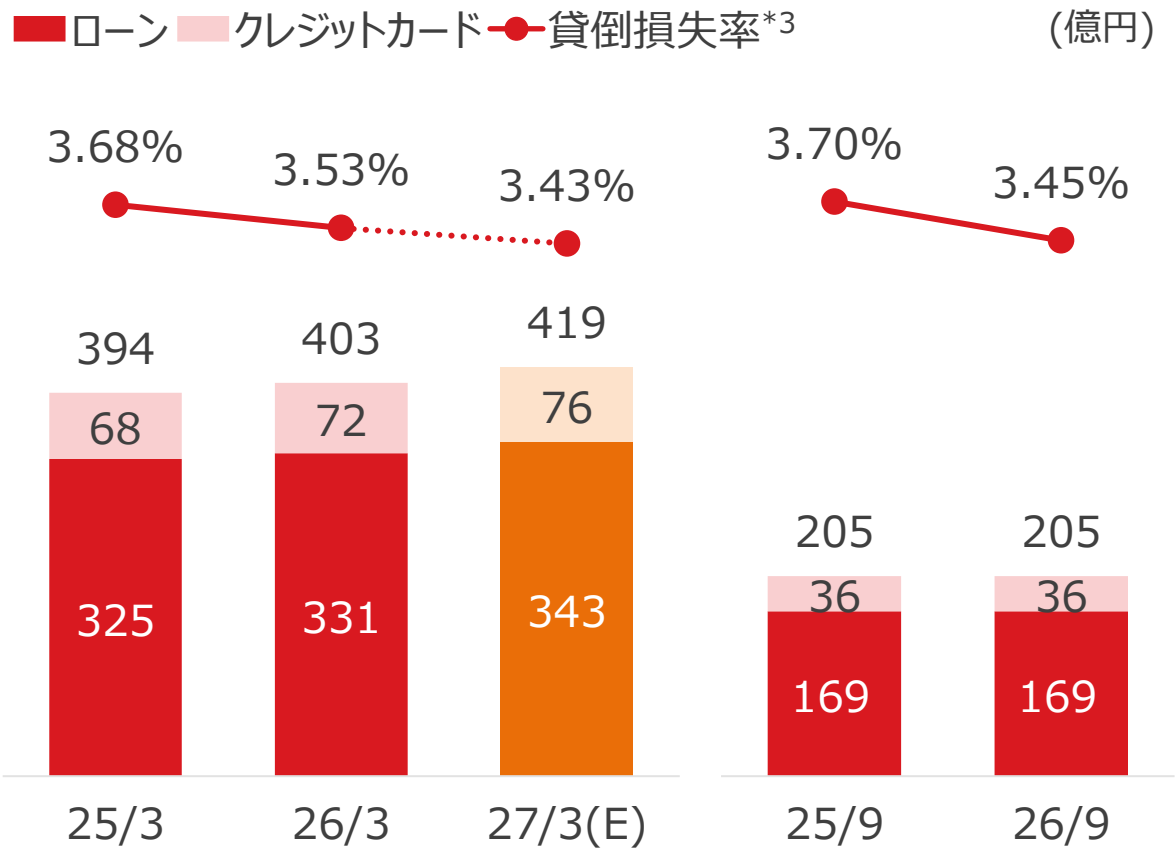
ローン・クレジットカード事業｜利回り・貸倒損失(アコム)

- ローン・クレジットカード事業の期中平均利回りは、前年同期比▲11bpsの14.83%
- 貸倒損失率は、同▲25bpsの3.45%

期中平均利回り*1



貸倒損失額・損失率*2

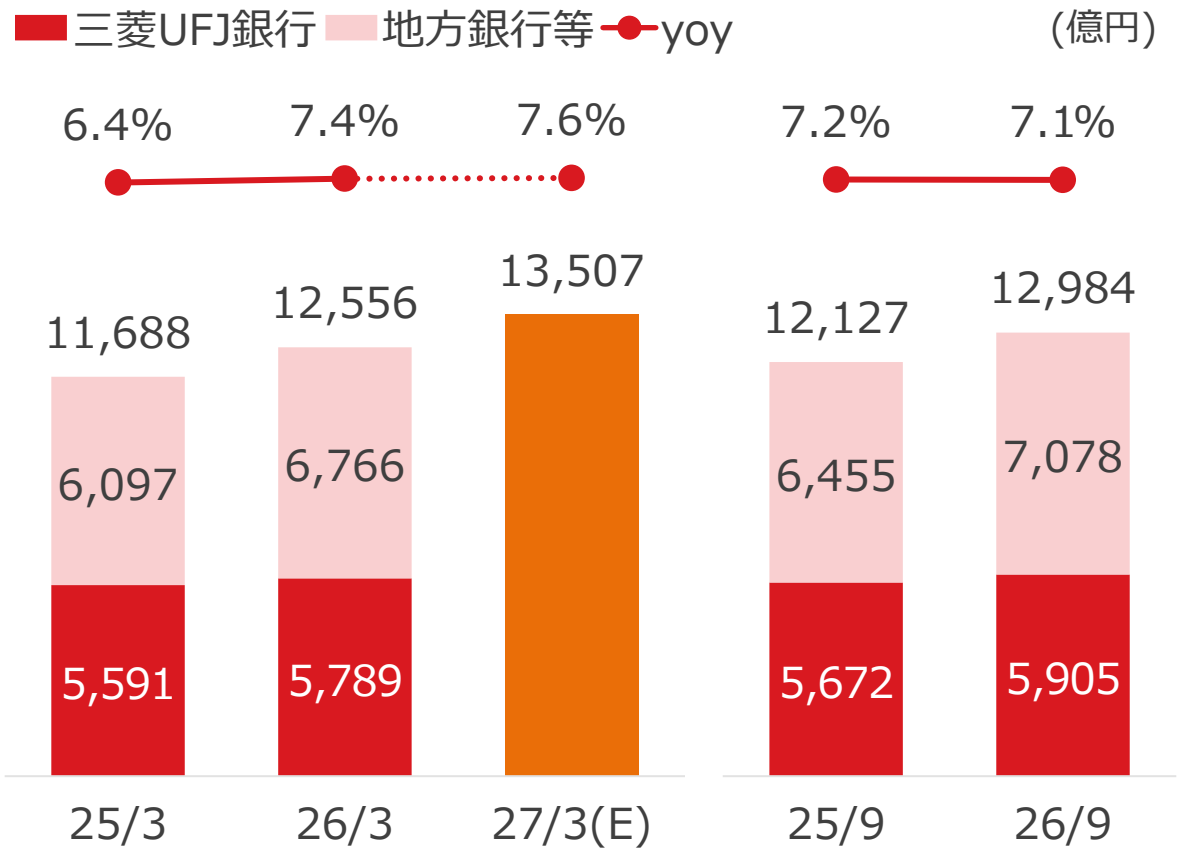


*1 クレジットカードにおける利回りはリボルビング残高と手数料より算出　*2 貸倒損失額及び損失率は利息返還請求に起因する債権放棄分を除く　*3 貸倒損失率の25/9及び26/9は年率換算

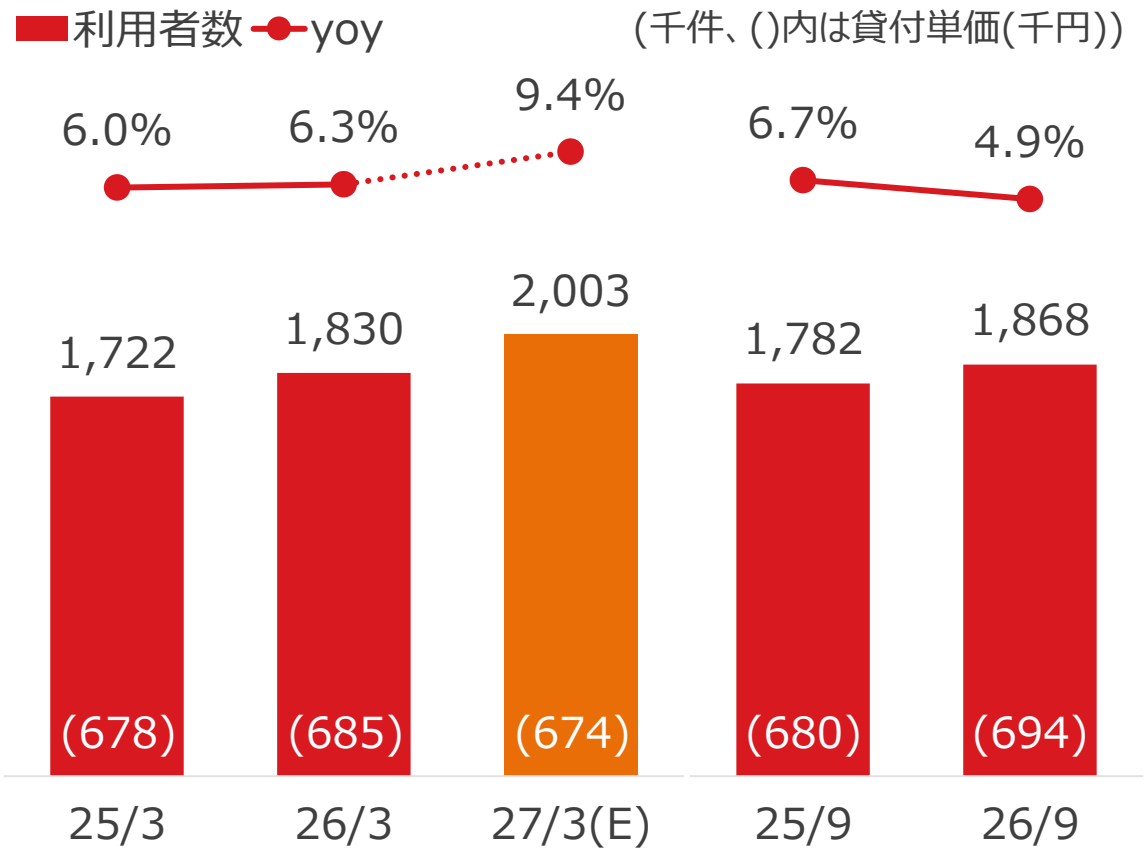
信用保証事業｜業容(アコム)

- アコム単体の信用保証残高は前年同期比＋7.1%の1兆2,984億円
- 利用者数は同＋4.9%の1,868千件

信用保証残高



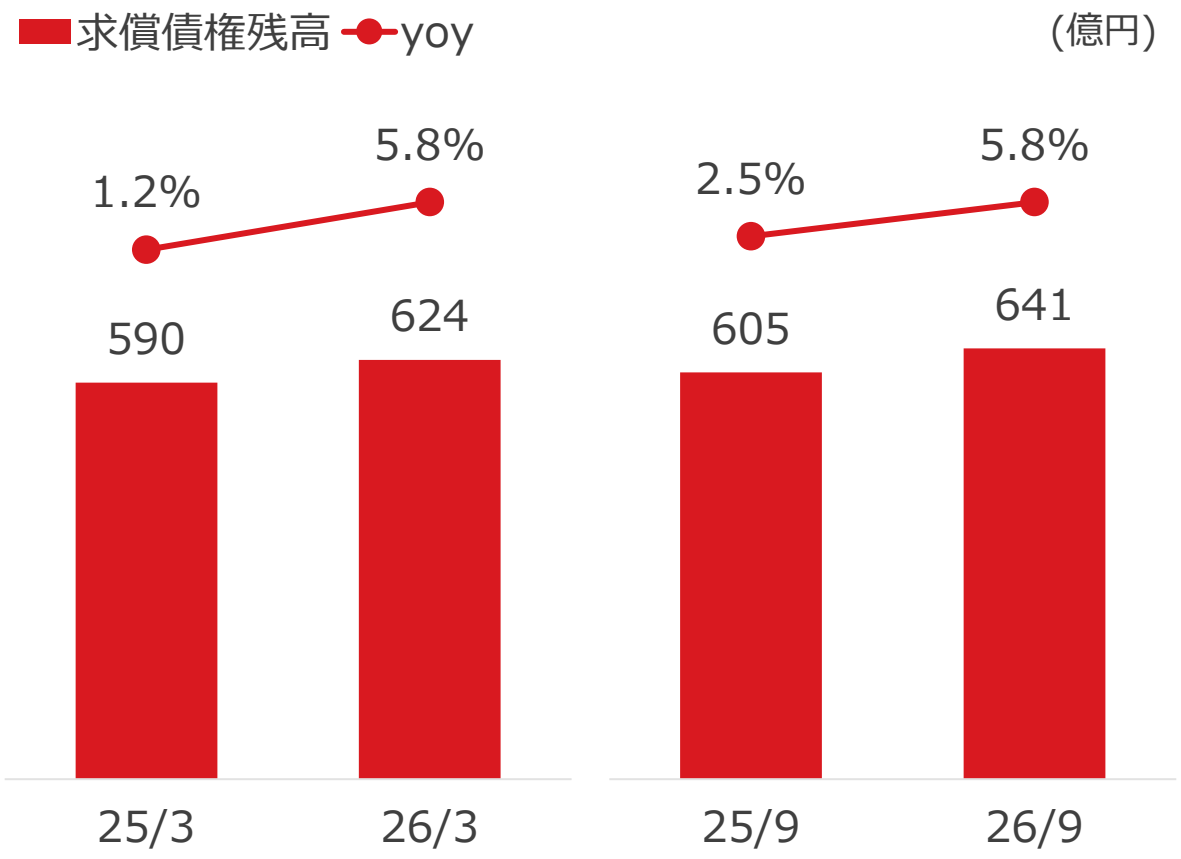
利用者数



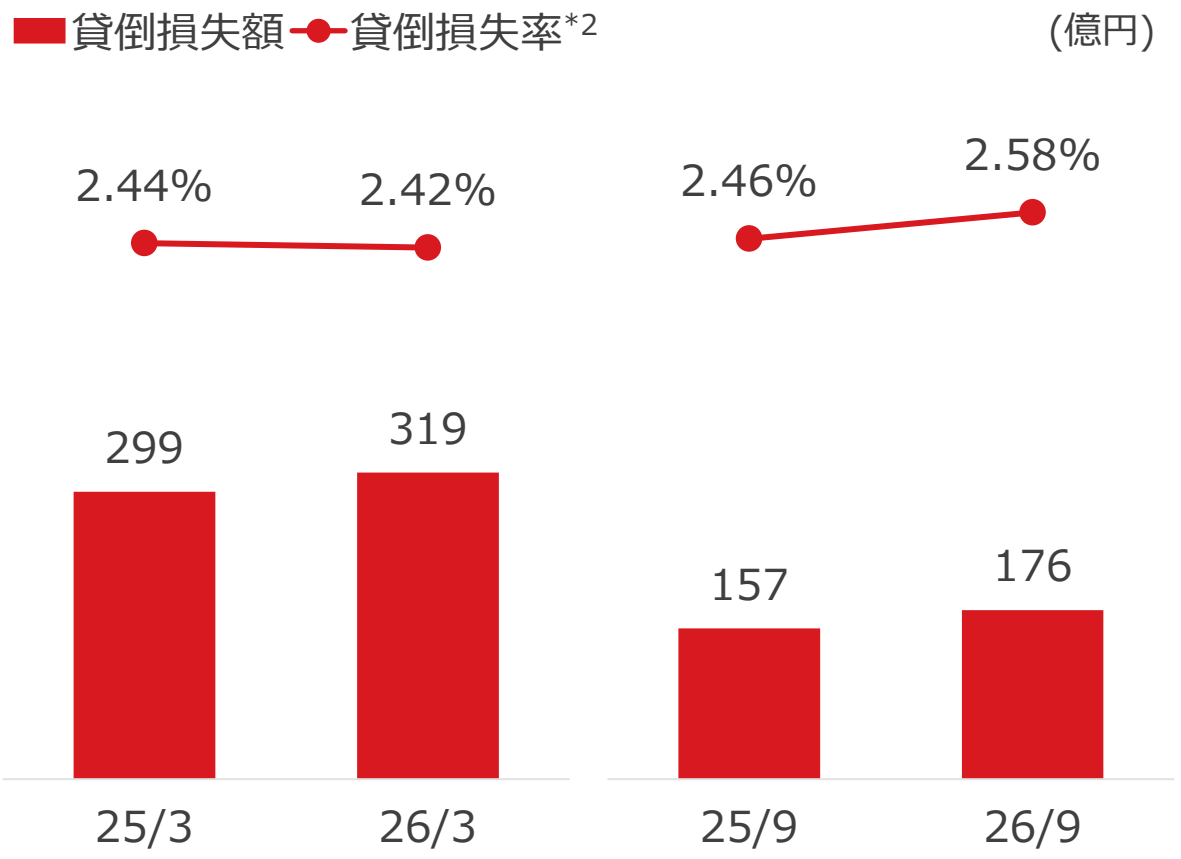
信用保証事業｜求償債権･貸倒損失(アコム)

- 求償債権は、前年同期比＋5.8%の641億円
- 貸倒損失率は、同＋12bpsの2.58%

求償債権残高*1



貸倒損失額･損失率



*1 求償債権残高とは、保証履行未償却債権残高　*2 貸倒損失率の25/9及び26/9は年率換算

海外金融事業｜グローバル事業基盤

タイ王国

EASY BUY Public Company Limited

出資比率： 71.00%
設立年月： 1996年9月

フィリピン共和国

ACOM CONSUMER FINANCE CORPORATION

出資比率： 80.00%
設立年月： 2017年7月



マレーシア

ACOM (M) SDN. BHD.

出資比率： 100.00%
設立年月： 2021年7月

カンボジア王国 <買収手続き中>

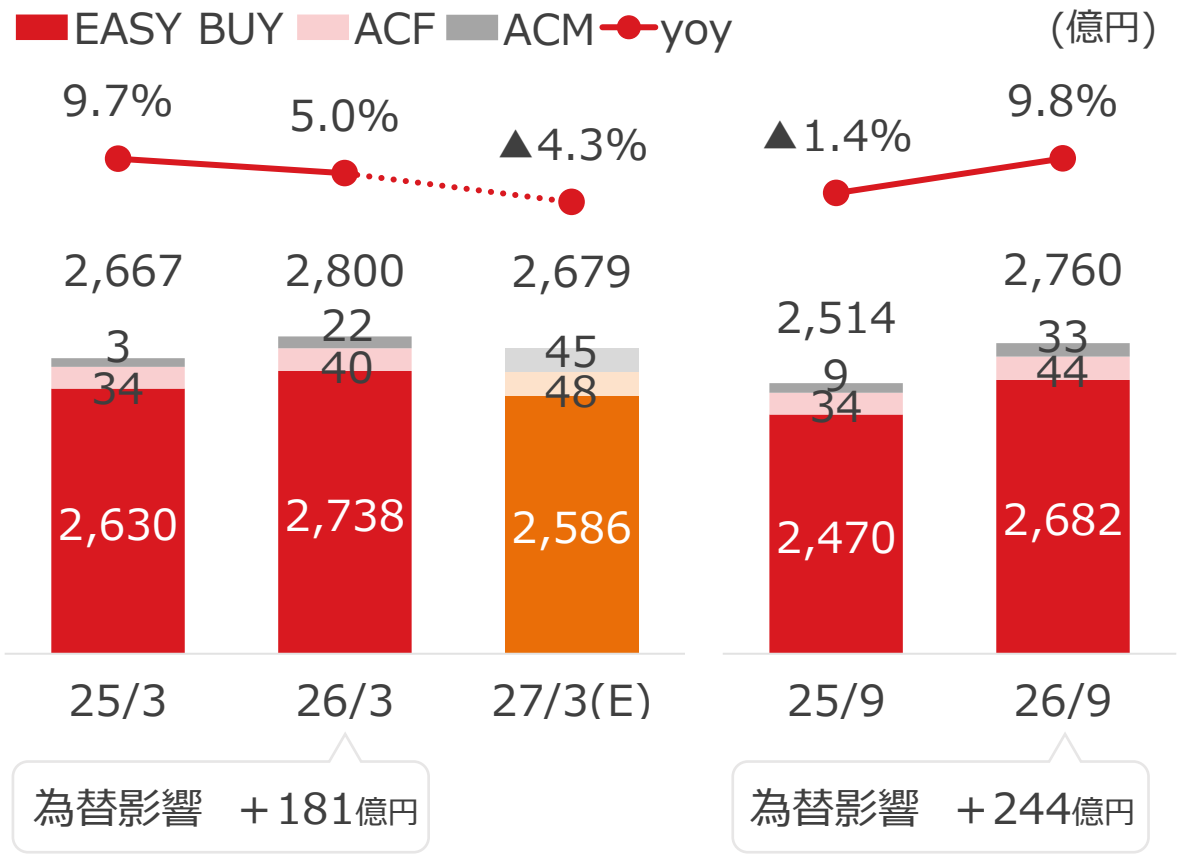
Prasethpheap Finance Plc

出資比率： 100.00%（予定）

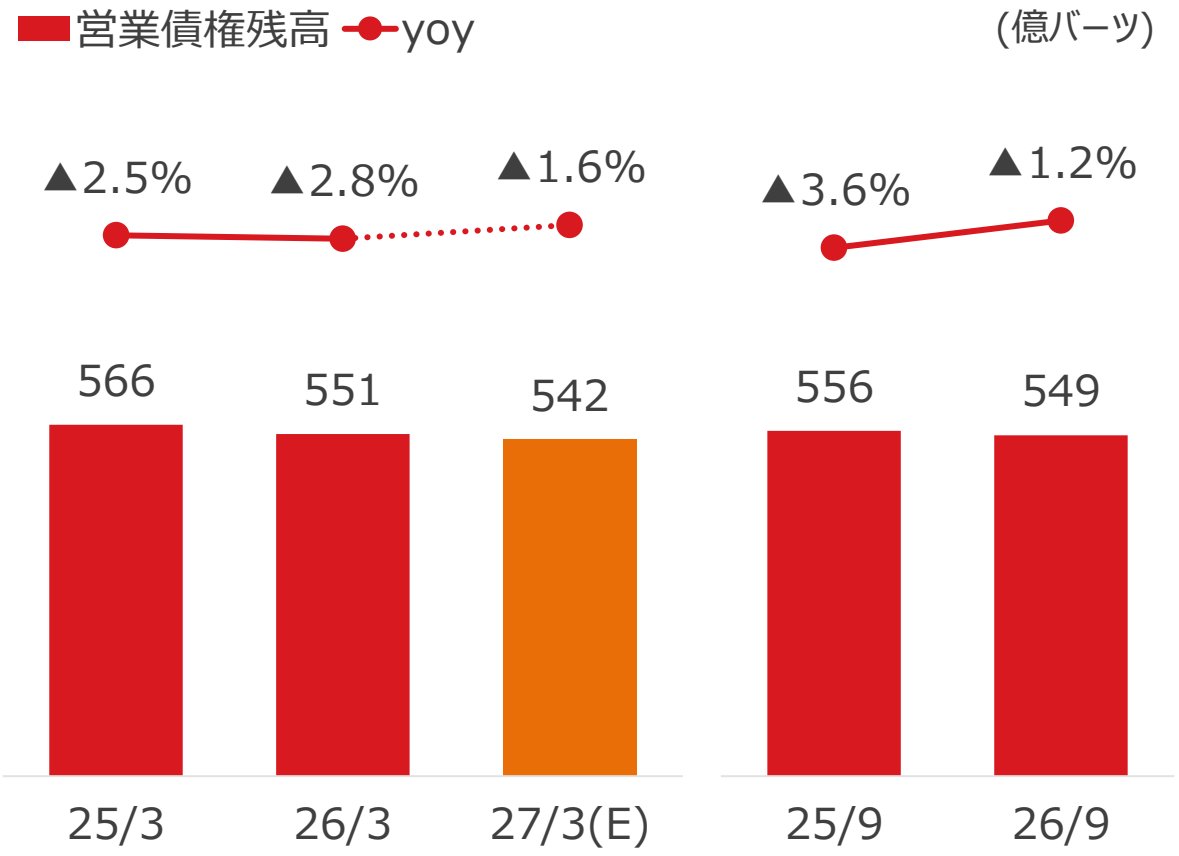
海外金融事業｜営業債権残高*1

- 営業債権残高(円ベース)は、 ACF、ACMの業容拡大に加え、円安の為替影響により、前年同期比＋9.8%の2,760億円
- タイ王国のEASY BUY(現地通貨ベース)の営業債権残高は、同▲1.2%の549億バーツ

海外金融事業(円ベース)*2



EASY BUY(現地通貨ベース)

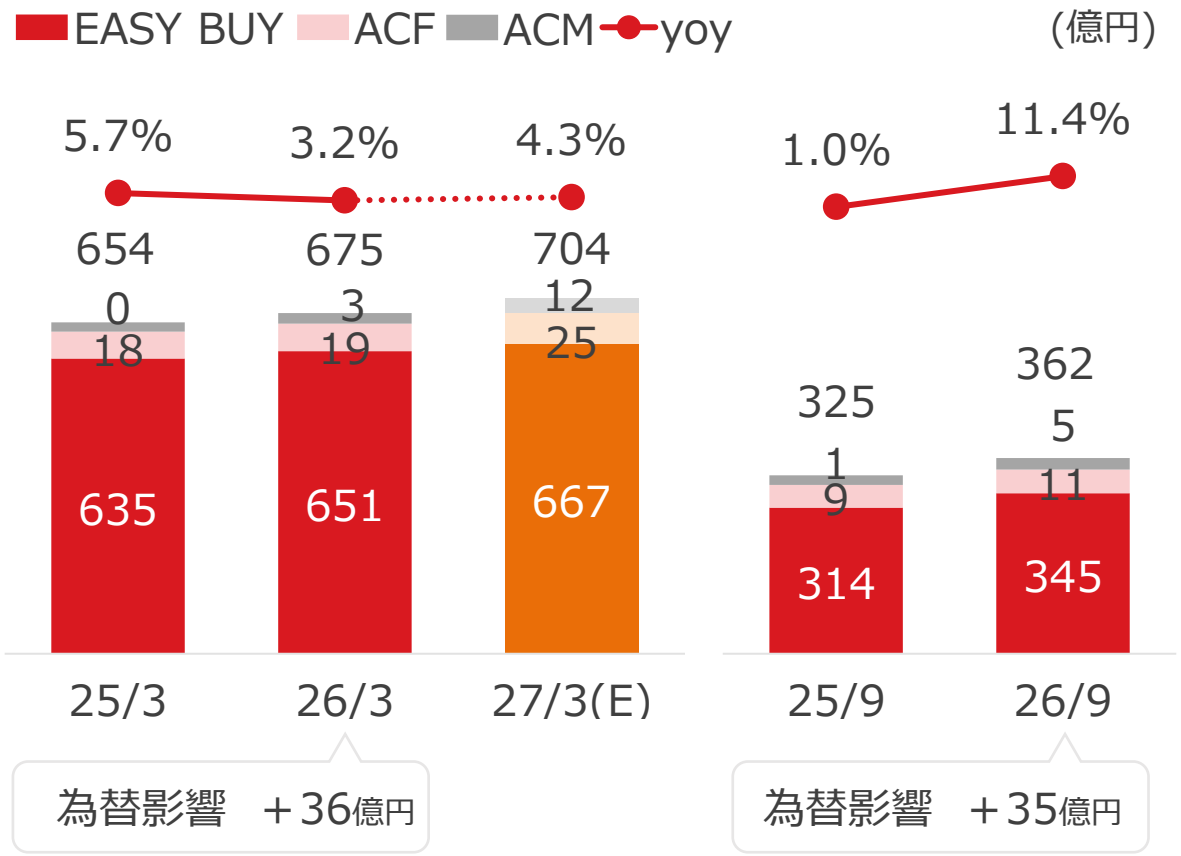


*1 営業債権残高は営業貸付金残高と割賦売掛金残高の合計　*2 為替レート(バーツ)：4.44円(25/9)、4.88円(26/9)、為替変動：＋0.44円

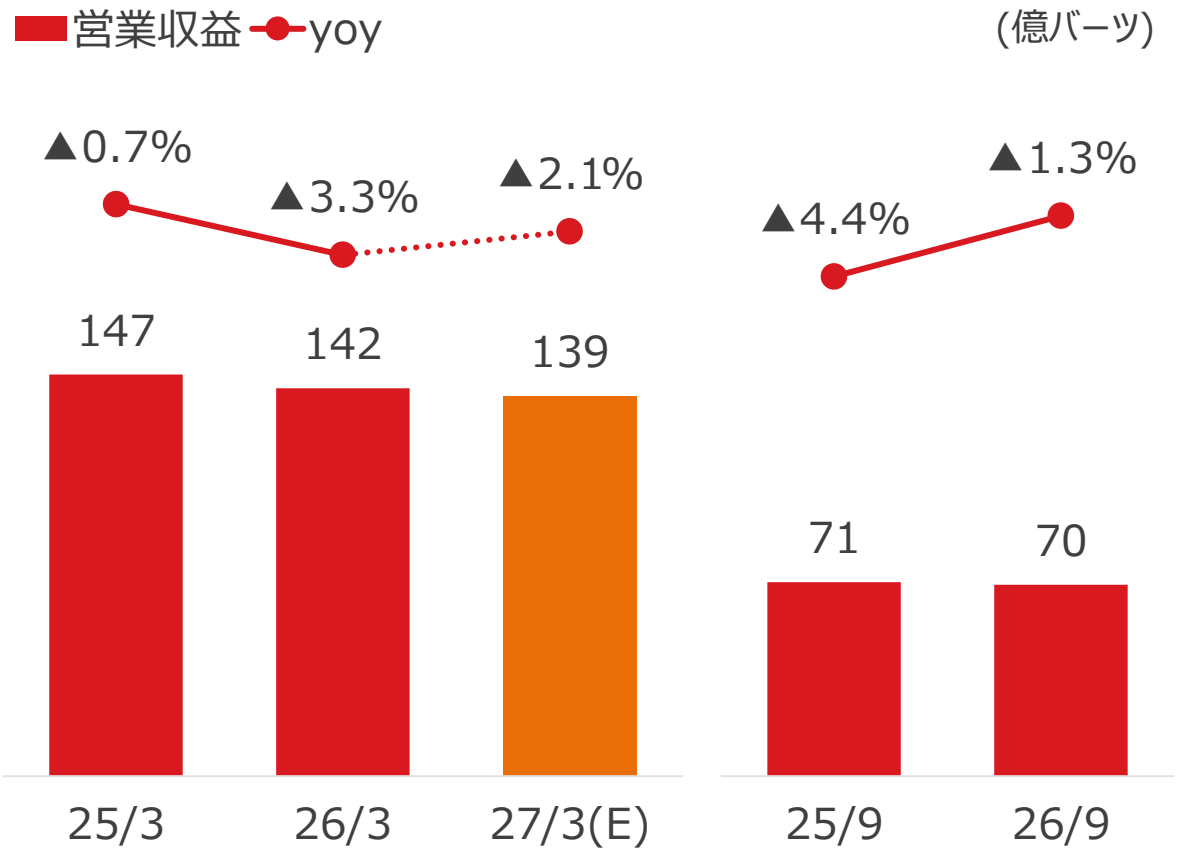
海外金融事業｜営業収益

- 営業収益(円ベース)は、円安の為替影響により、前年同期比＋11.4%の362億円
- EASY BUY(現地通貨ベース)の営業収益は、同▲1.3%の70億バーツ

海外金融事業(円ベース)*1*2



EASY BUY(現地通貨ベース)

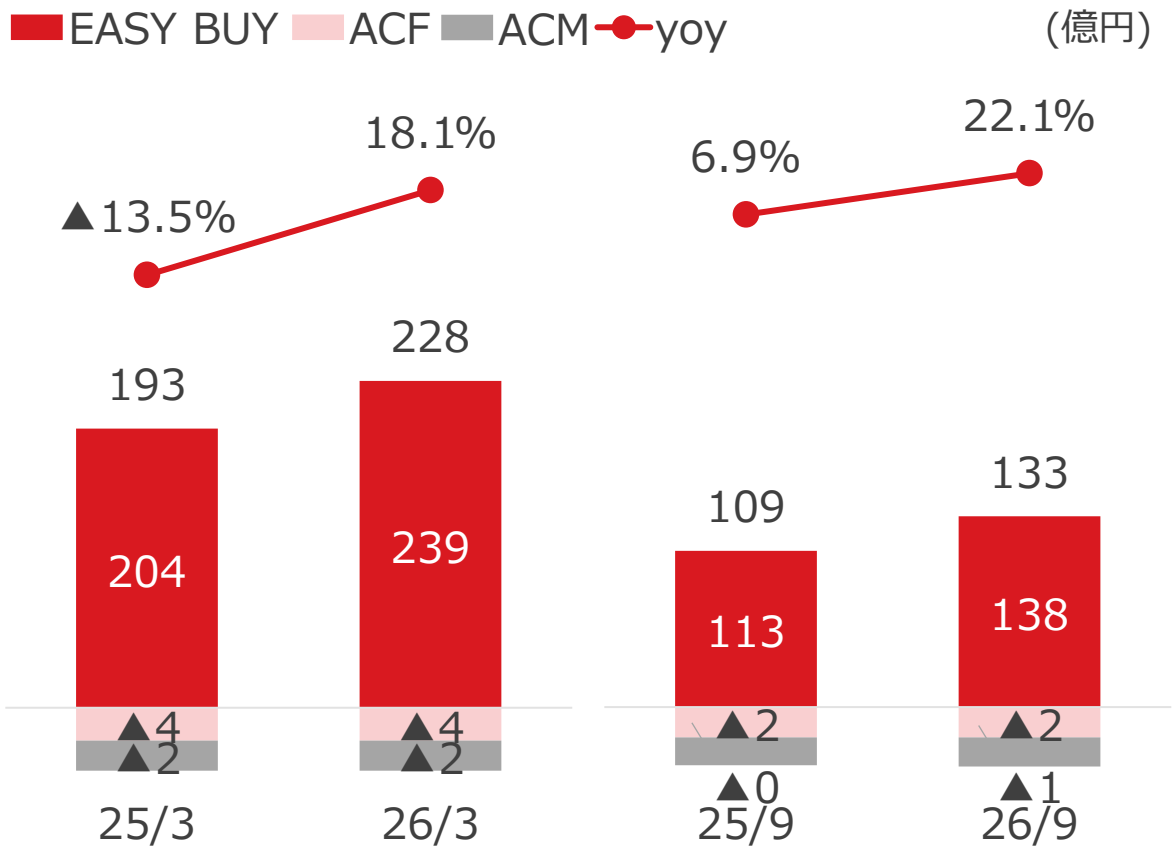


*1 報告セグメント別の営業収益　*2 為替レート(バーツ)：4.43円(25/9)、4.93円(26/9) 、為替変動 ：＋0.50円

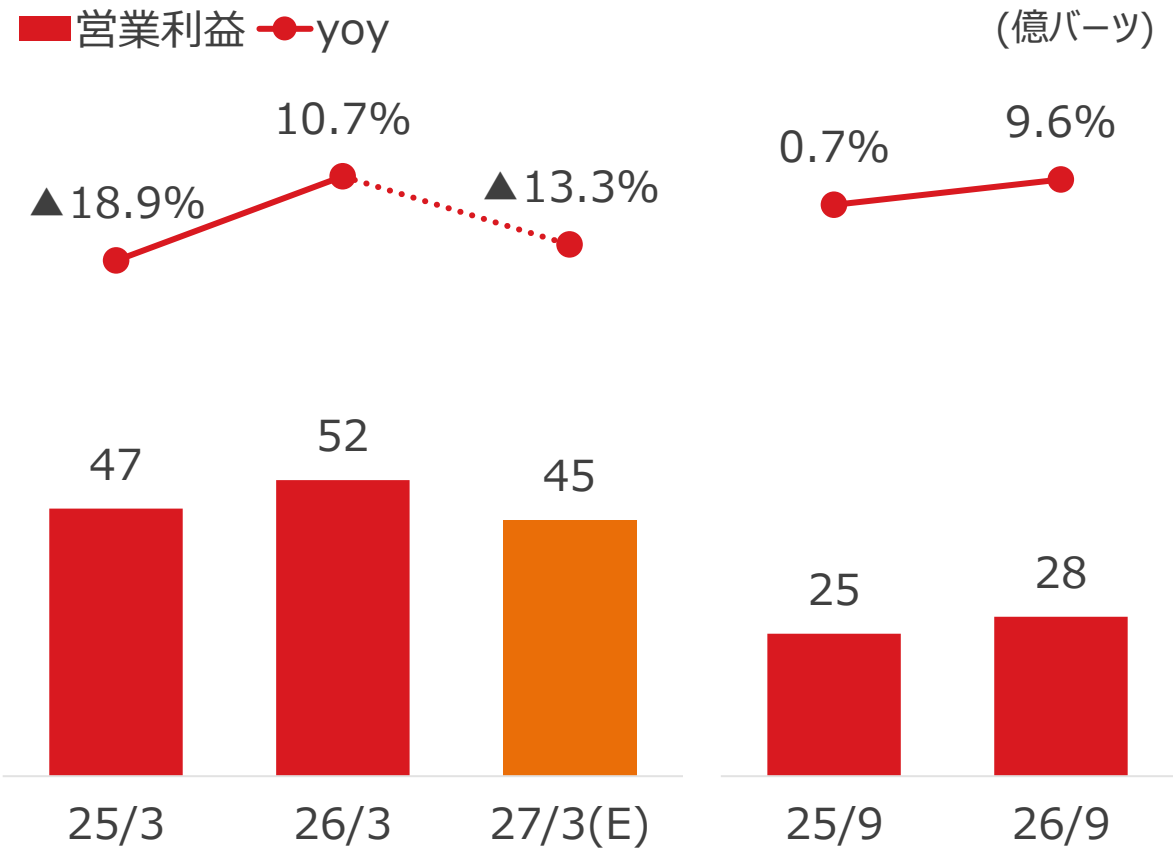
海外金融事業｜営業利益

- 営業利益(円ベース)は、前年同期比＋22.1%の133億円
- EASY BUY(現地通貨ベース)の営業利益は、貸倒関連費用の減少を主因に、同＋9.6%の28億バーツ

海外金融事業(円ベース)*



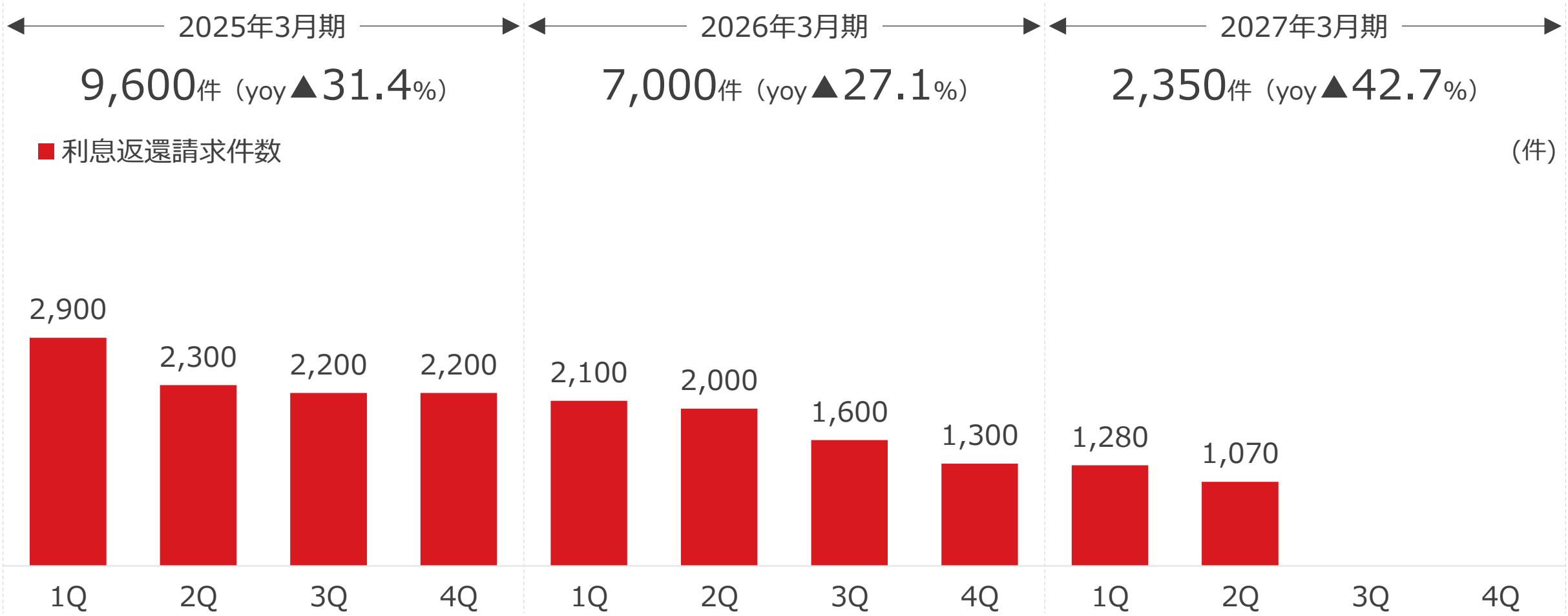
EASY BUY(現地通貨ベース)



* セグメント利益

利息返還請求件数*

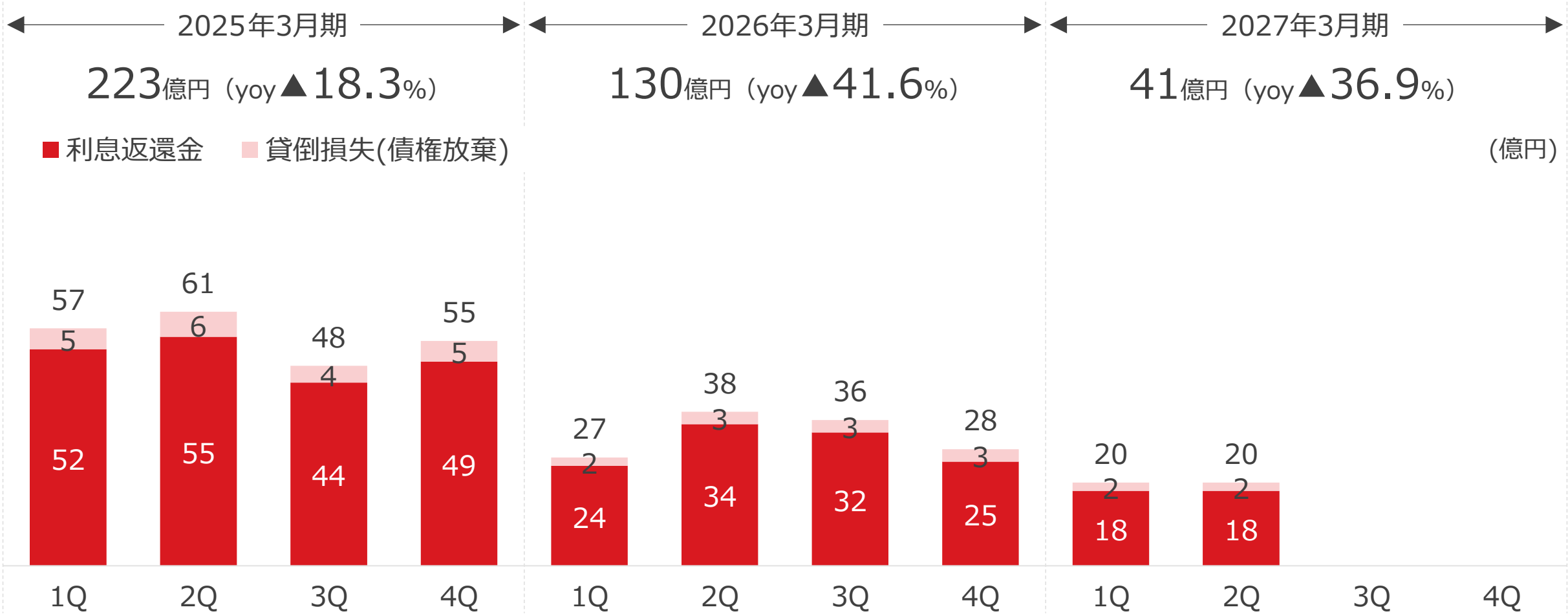
- 当第2四半期の請求件数は、前年同期比▲42.7%の2,350件
- 2027年3月期の請求件数は、前期比▲25%程度を予想



* 利息返還請求件数は、弁護士・司法書士受任債権発生件数のうち、当社が利息制限法に基づいて再計算した結果、利息返還金が発生する件数(再受任分を含む)。2027年3月期1Qより、10件単位で表示。

利息返還損失

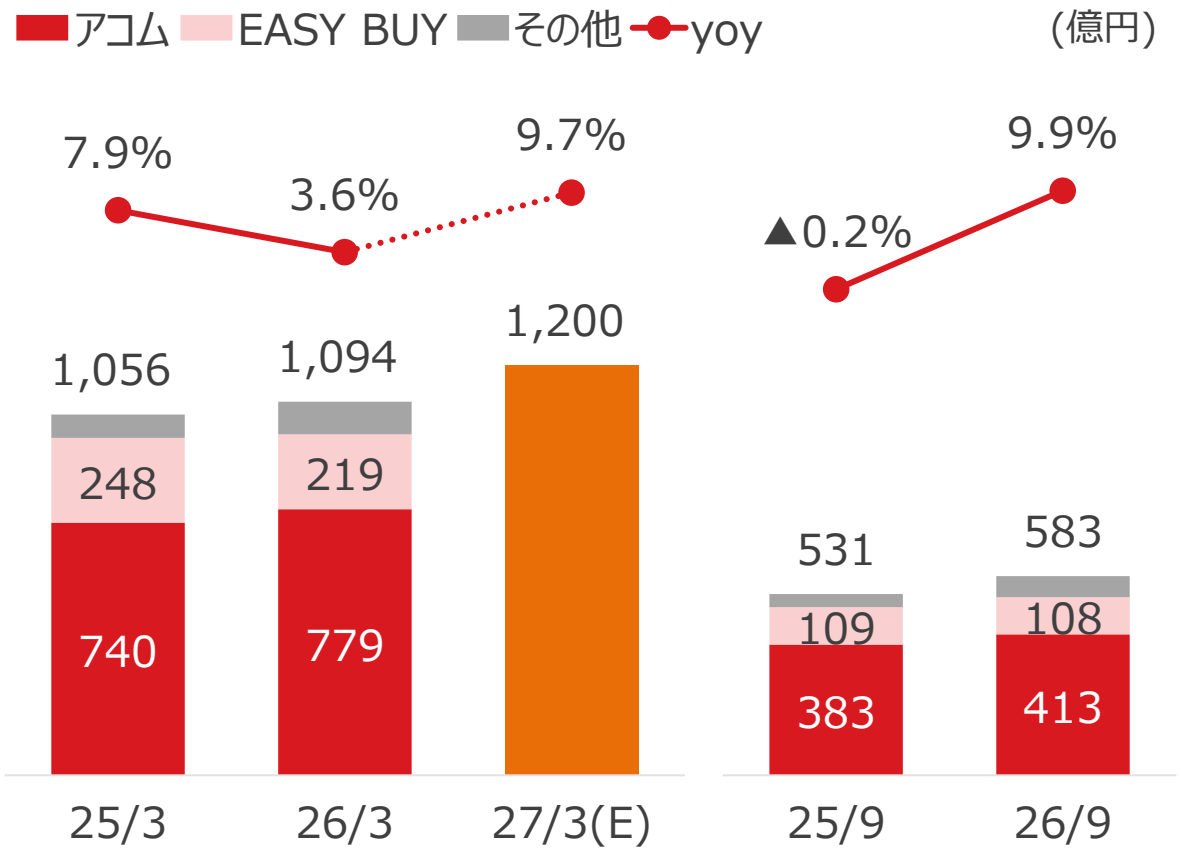
- 当第2四半期の取崩しは、前年同期比▲36.9%の41億円
- 引当金残高は373億円
- 2027年3月期の取崩額は、前期比▲25%程度を予想



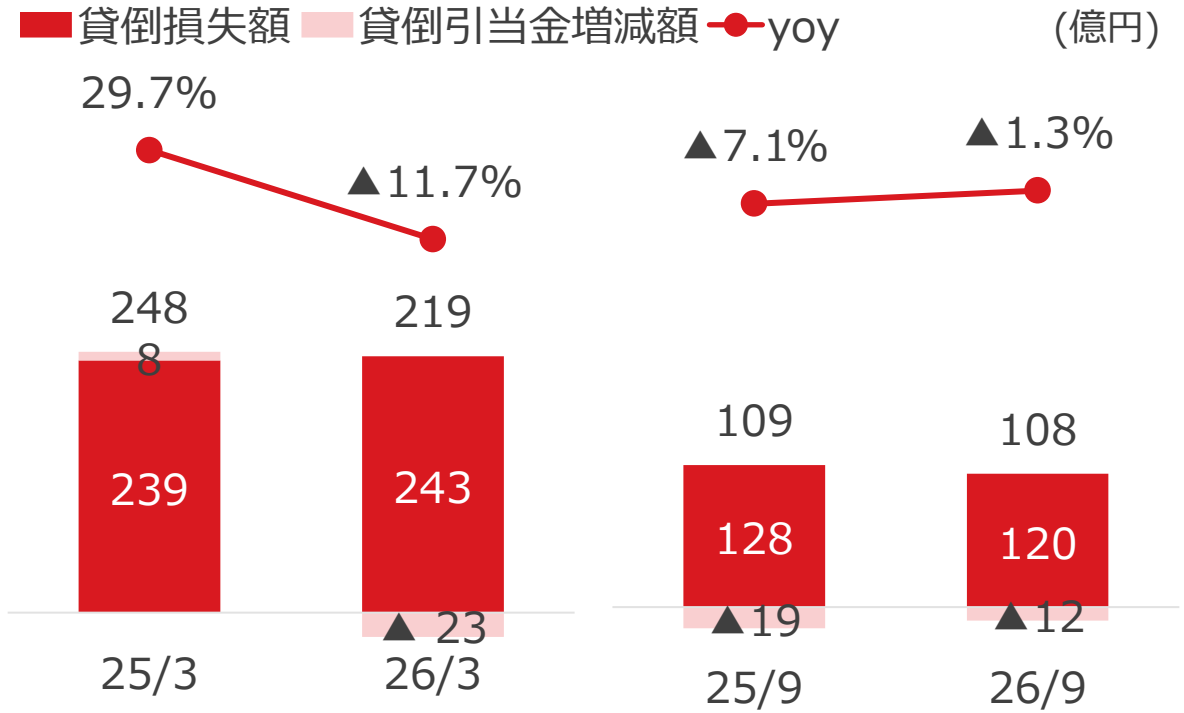
貸倒関連費用

- 貸倒関連費用(連結)は、アコム単体の増加により、前年同期比＋9.9%の583億円
- EASY BUYの貸倒関連費用は、同▲1.3%の108億円

貸倒関連費用(連結)



貸倒関連費用(EASY BUY)



現地通貨ベースのyoy

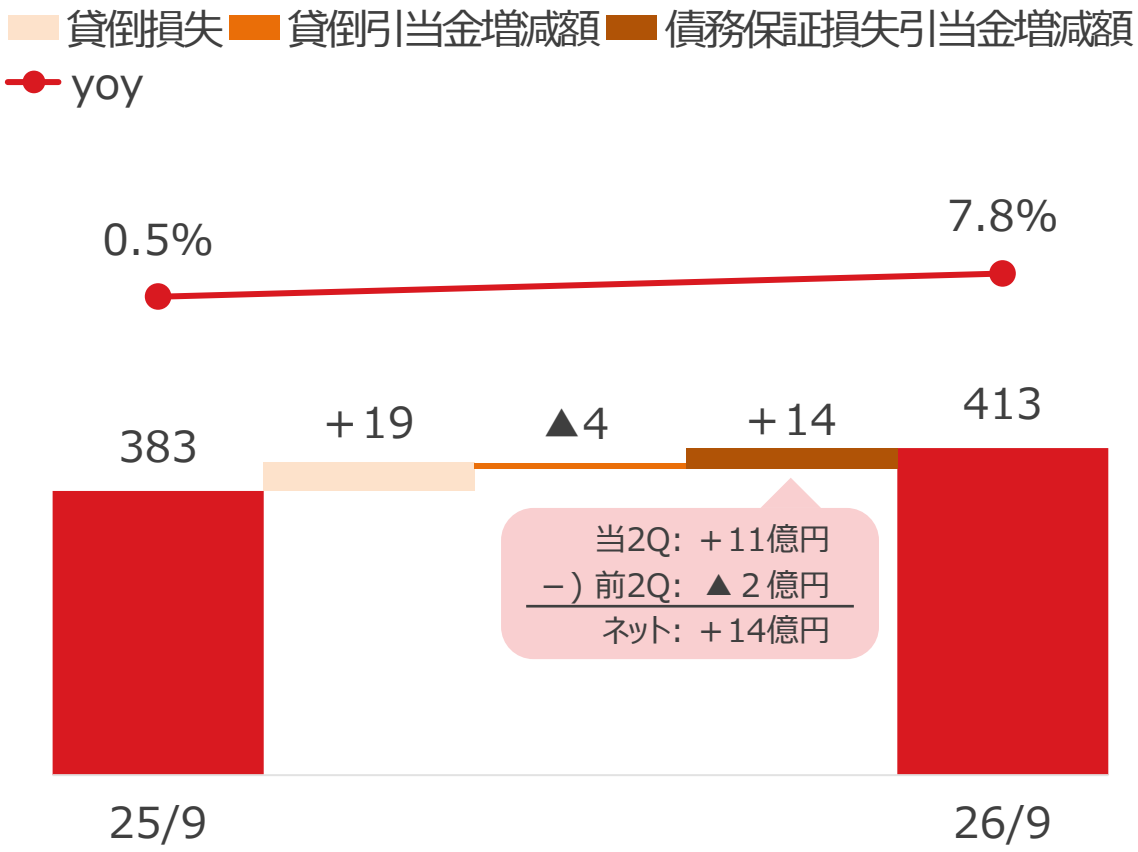
21.9%	▲16.7%	▲11.7%	▲11.3%

貸倒関連費用(アコム)

● 貸倒関連費用は、前年同期比＋7.8%の413億円

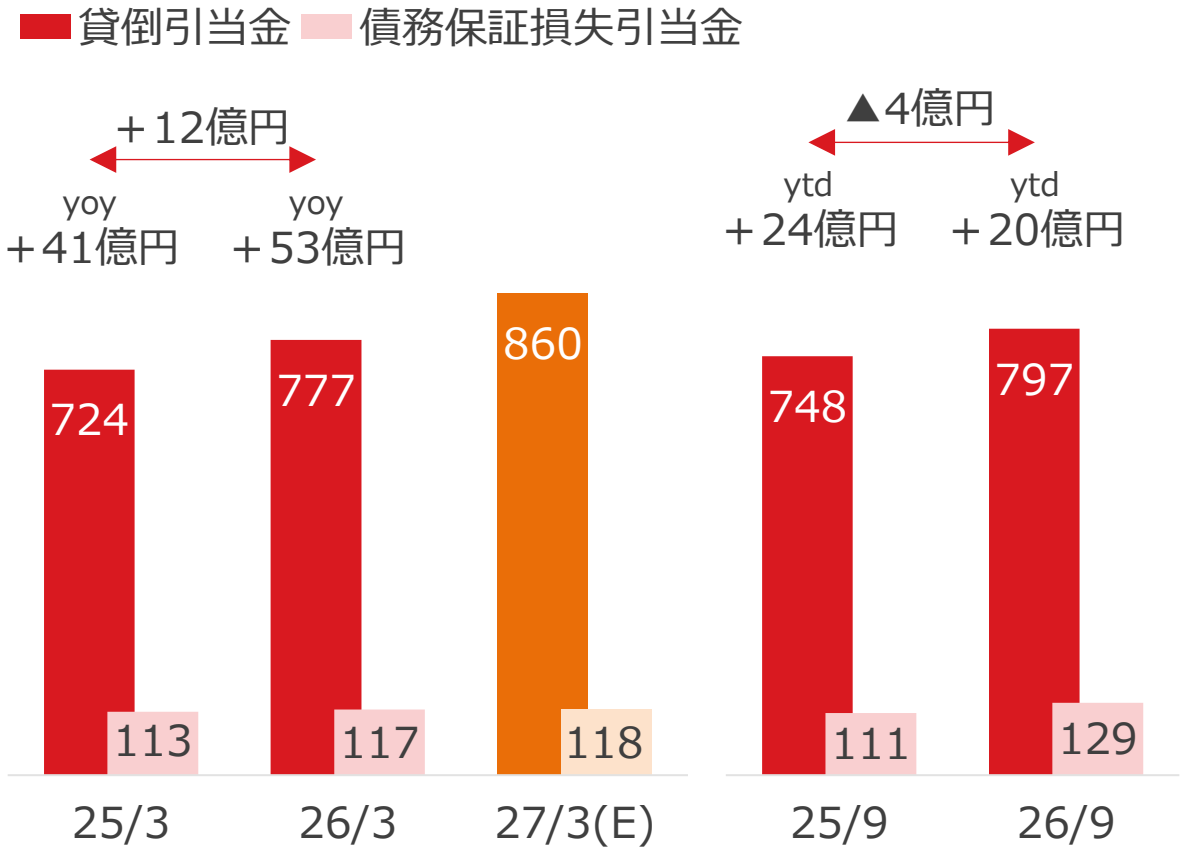
貸倒関連費用

(億円)



貸倒引当金･債務保証損失引当金

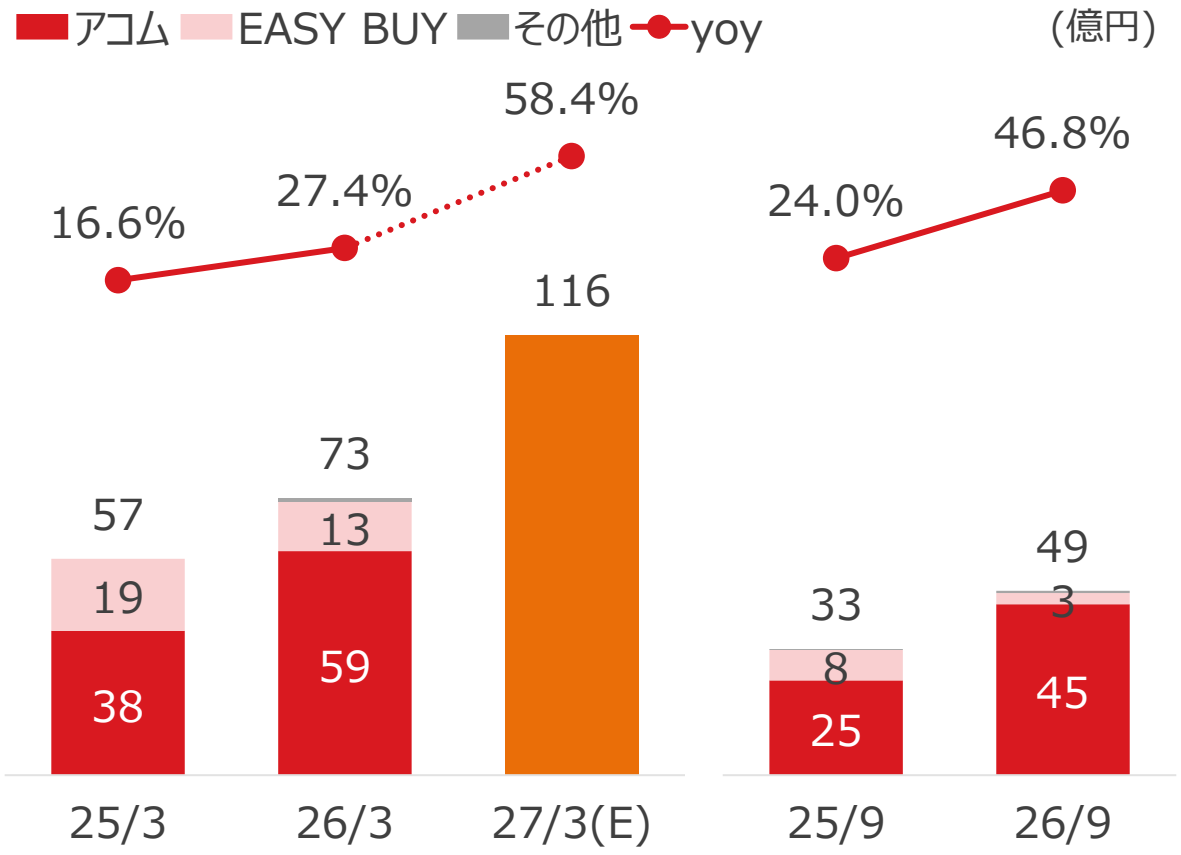
(億円)



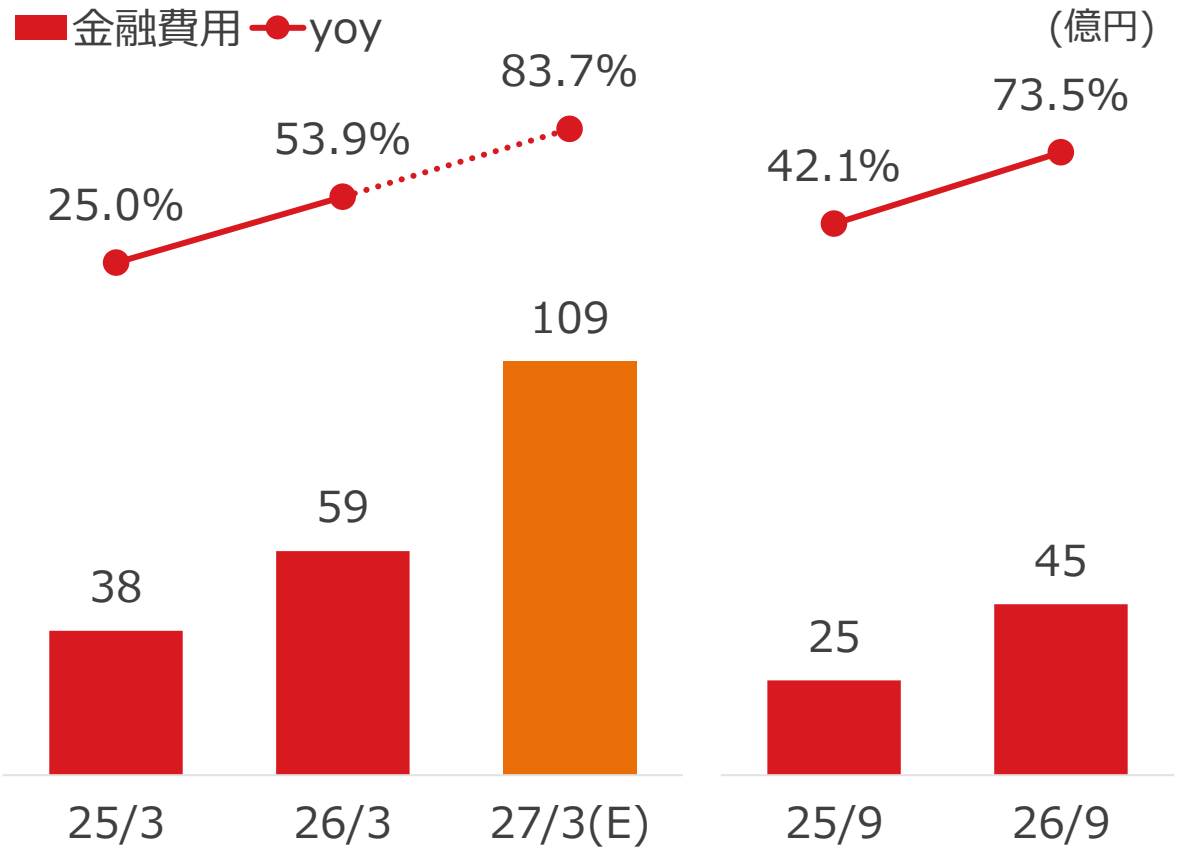
金融費用

- 金融費用(連結)は、前年同期比＋46.8%の49億円
- 金融費用(アコム)は、同＋73.5%の45億円

金融費用(連結)



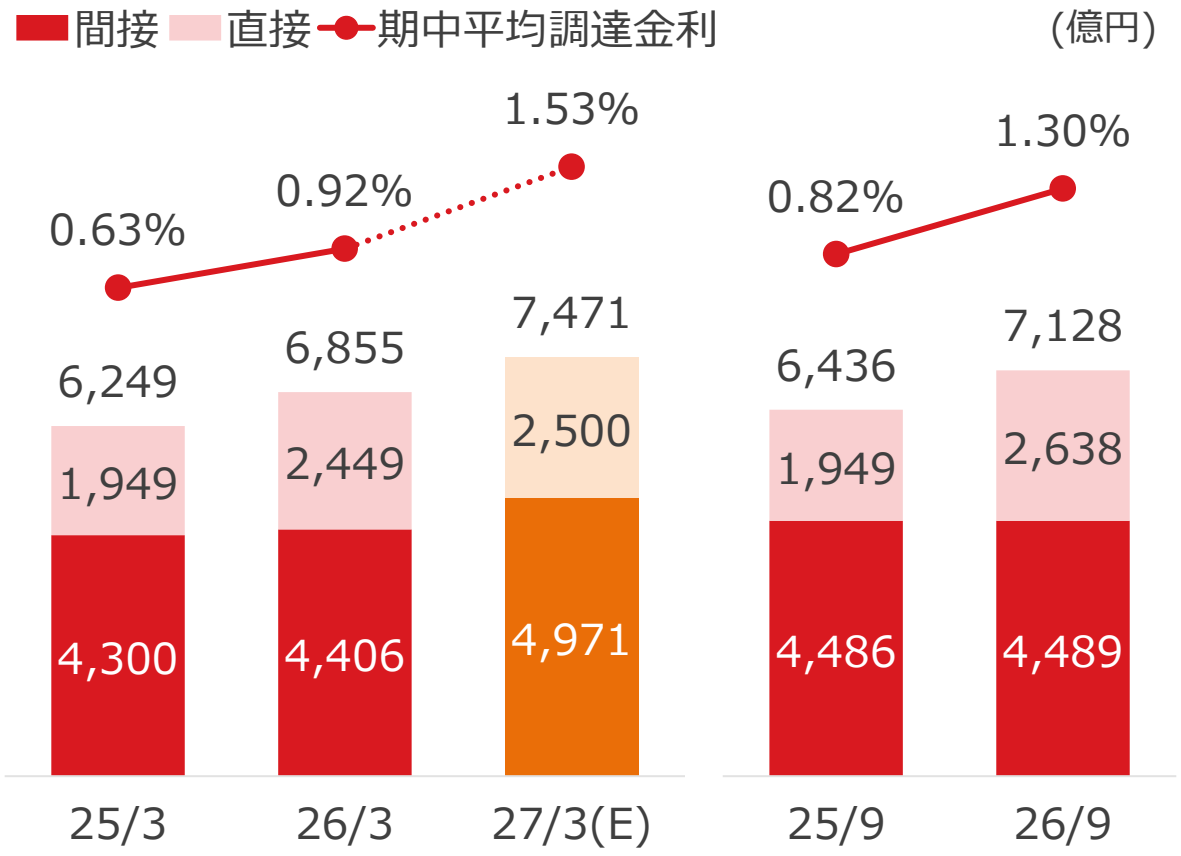
金融費用(アコム)



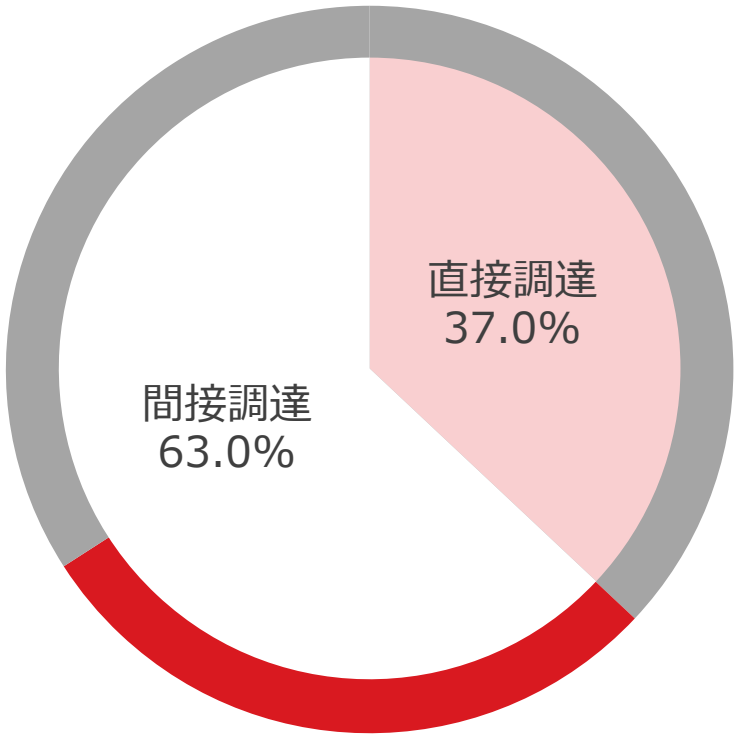
金融費用｜資金調達残高(アコム)

- 資金調達残高は、前年同期比＋692億円の7,128億円
- 期中平均調達金利は、同＋48bpsの1.30%

資金調達残高



借入先別構成比



三菱UFJ銀行 28.9%

固定金利比率
70.1%

長期借入比率
86.1%

1年以内返済予定額
3,658億円

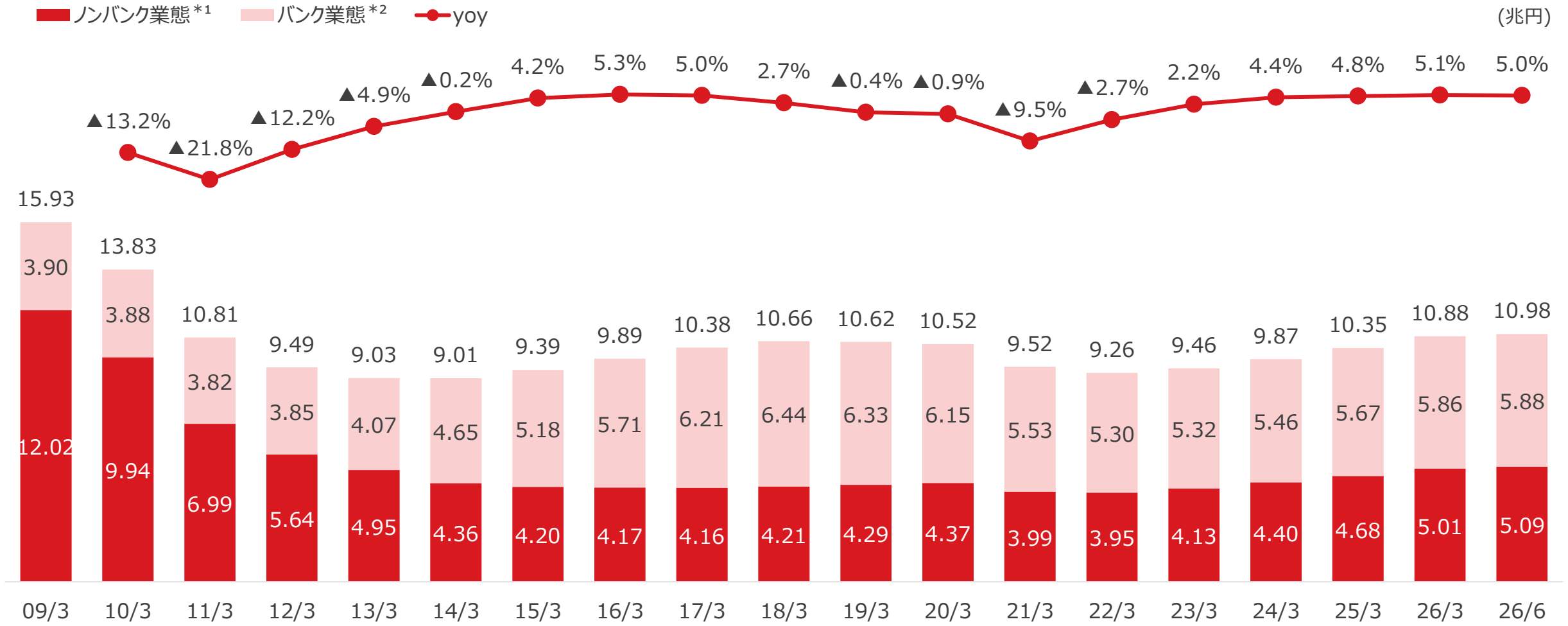
Appendix

連結決算概要(業績)

(百万円、%)

		2025/9 実績	2026/9 実績	2026/9 yoy	2027/3 計画	2027/3 yoy	進捗率
1	営業収益	165,670	178,927	8.0	356,000	5.4	50.3
2	ローン・クレジットカード事業	89,980	95,897	6.6	191,600	5.3	50.1
3	信用保証事業	39,802	42,578	7.0	86,000	6.1	49.5
4	海外金融事業	32,542	36,258	11.4	70,400	4.3	51.5
5	営業費用	111,606	121,644	9.0	258,000	8.7	47.1
6	金融費用	3,394	4,981	46.8	11,600	58.4	42.9
7	貸倒関連費用	53,122	58,379	9.9	120,000	9.7	48.6
8	利息返還費用	-	-	-	5,200	-20.9	-
9	その他の営業費用	55,089	58,283	5.8	121,200	6.3	48.1
10	営業利益	54,063	57,282	6.0	98,000	-2.4	58.5
11	経常利益	54,245	57,382	5.8	98,500	-2.0	58.3
12	税金等調整前当期純利益	54,534	57,252	5.0	98,300	-2.4	58.2
13	当期純利益	53,491	39,713	-25.8	68,600	-19.2	57.9
14	親会社株主に帰属する当期純利益	50,978	36,637	-28.1	63,800	-19.9	57.4

個人向けローン市場の規模推移

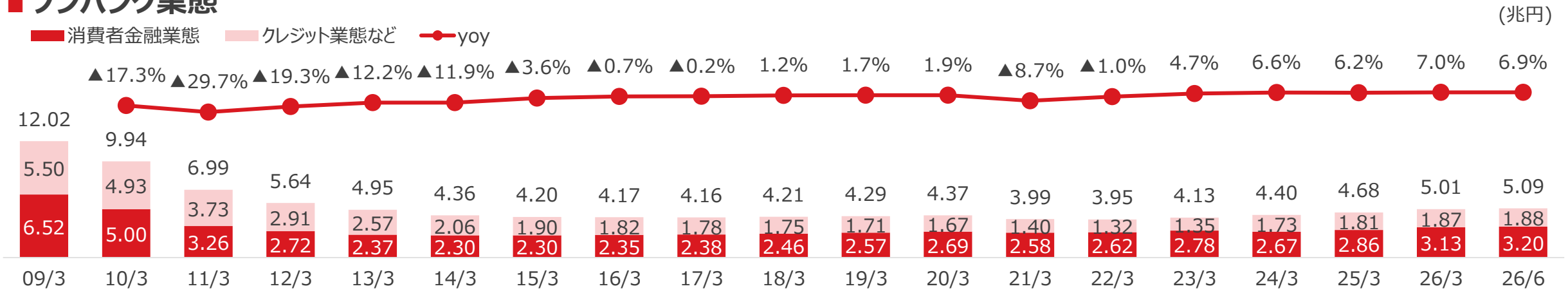


アコムシェア	10.3%	12.4%	13.5%	14.4%	15.6%	16.2%	16.7%	17.2%	17.4%	17.7%	18.2%	18.9%	19.4%	19.6%	20.0%	20.3%	20.6%	20.8%
連結ベース					16.4%	17.1%	17.7%	18.4%	18.8%	19.1%	19.7%	20.5%	21.1%	21.4%	21.8%	22.2%	22.7%	22.9%

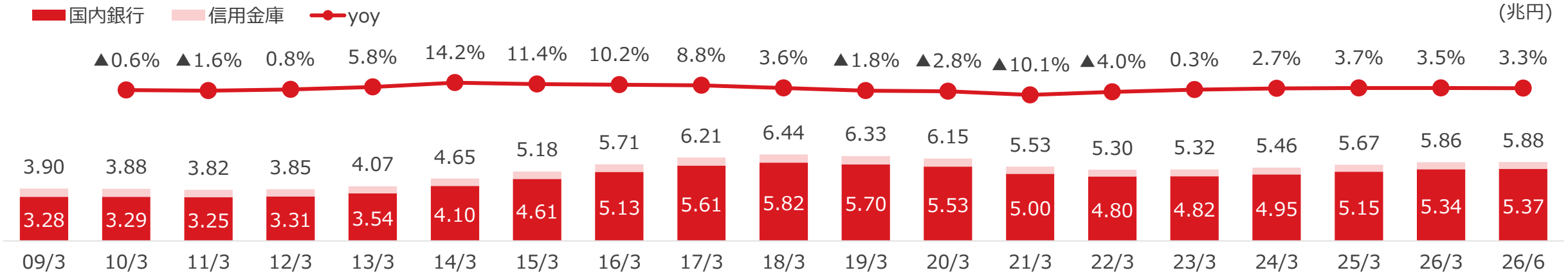
*1 ノンバンク業態は日本貸金業協会統計の営業貸付金残高（証書貸付を含む）、2026年6月数値は速報値　*2 バンク業態は日本銀行統計の国内銀行及び信用金庫の個人向けカードローン残高

業態別個人向けローン市場の規模推移

ノンバンク業態*1

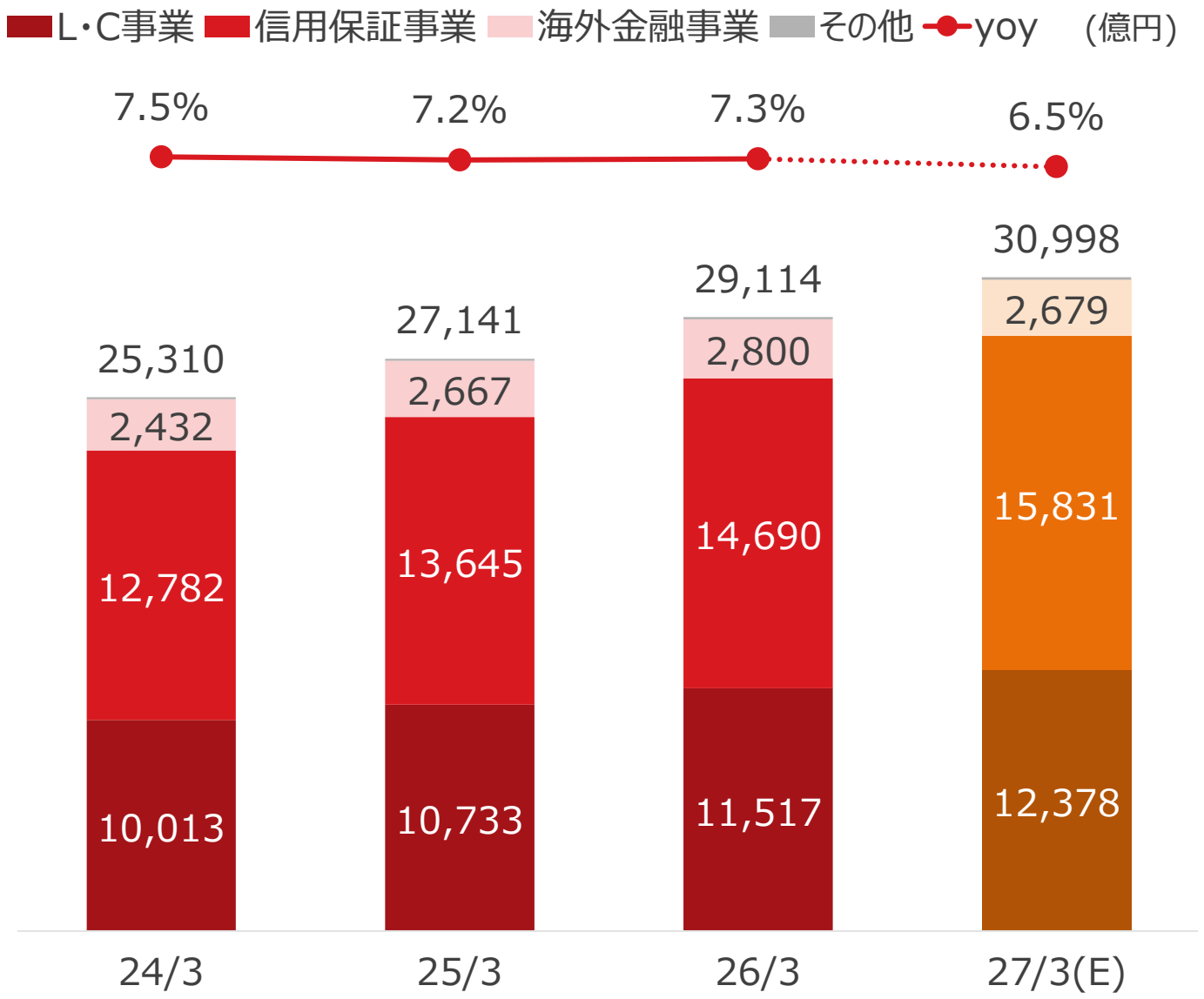


バンク業態*2



*1 ノンバンク業態は日本貸金業協会統計の営業貸付金残高（証書貸付を含む）、2026年6月数値は速報値　*2 バンク業態は日本銀行統計の国内銀行及び信用金庫の個人向けカードローン残高

2027年3月期 通期計画(業容)



連結 営業債権残高	**3兆998億円**	(yoy＋6.5%)
ローン・クレジット カード事業	**1兆2,378億円**	(yoy＋7.5%)
信用保証事業	**1兆5,831億円**	(yoy＋7.8%)
海外金融事業	**2,679億円**	(yoy▲4.3%)

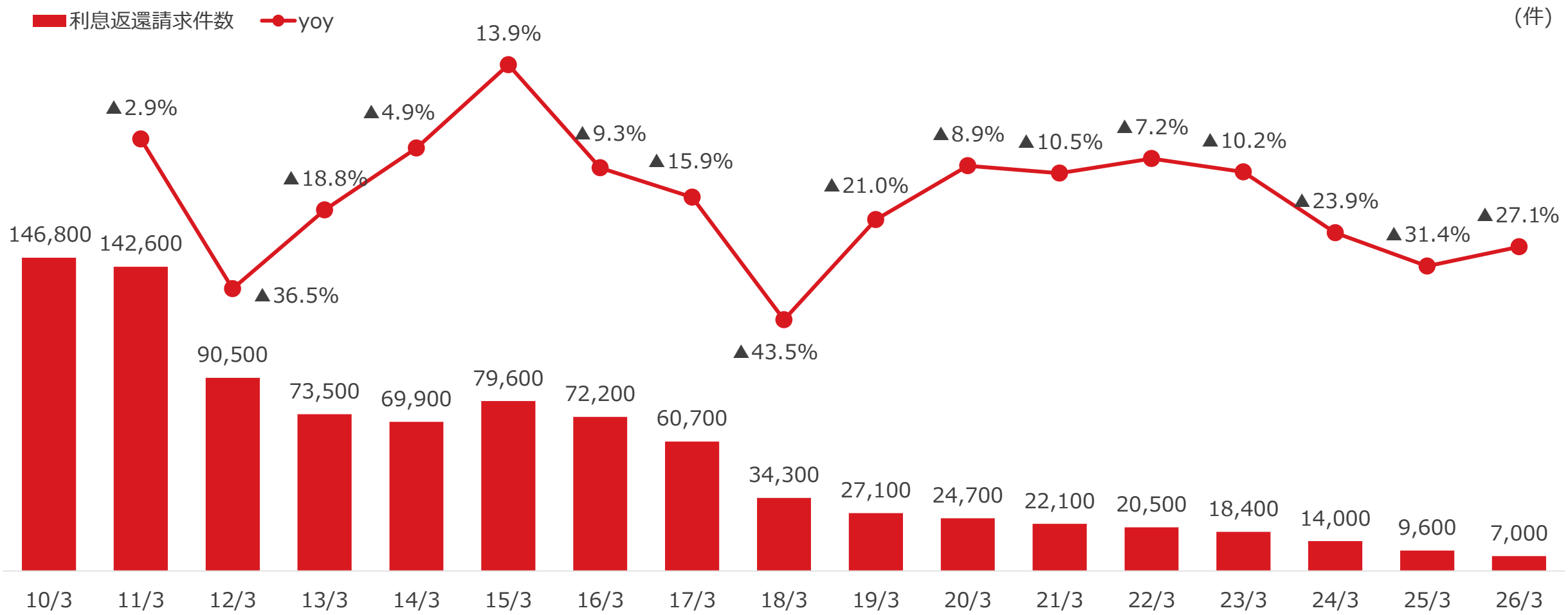
2027年3月期 通期計画(業績)

(百万円、%)

		2026/3		2027/3	
		実績	yoy	計画	yoy
1	営業収益	337,709	6.3	356,000	5.4
2	ローン・クレジットカード事業	181,889	7.3	191,600	5.3
3	信用保証事業	81,039	6.2	86,000	6.1
4	海外金融事業	67,526	3.2	70,400	4.3
5	営業費用	237,315	-8.4	258,000	8.7
6	金融費用	7,323	27.4	11,600	58.4
7	貸倒関連費用	109,434	3.6	120,000	9.7
8	利息返還費用	6,573	-83.6	5,200	-20.9
9	その他の営業費用	113,982	5.8	121,200	6.3
10	営業利益	100,394	71.4	98,000	-2.4
11	経常利益	100,513	70.6	98,500	-2.0
12	税金等調整前当期純利益	100,746	71.8	98,300	-2.4
13	当期純利益	84,888	132.1	68,600	-19.2
14	親会社株主に帰属する当期純利益	79,635	147.9	63,800	-19.9

利息返還請求件数の推移

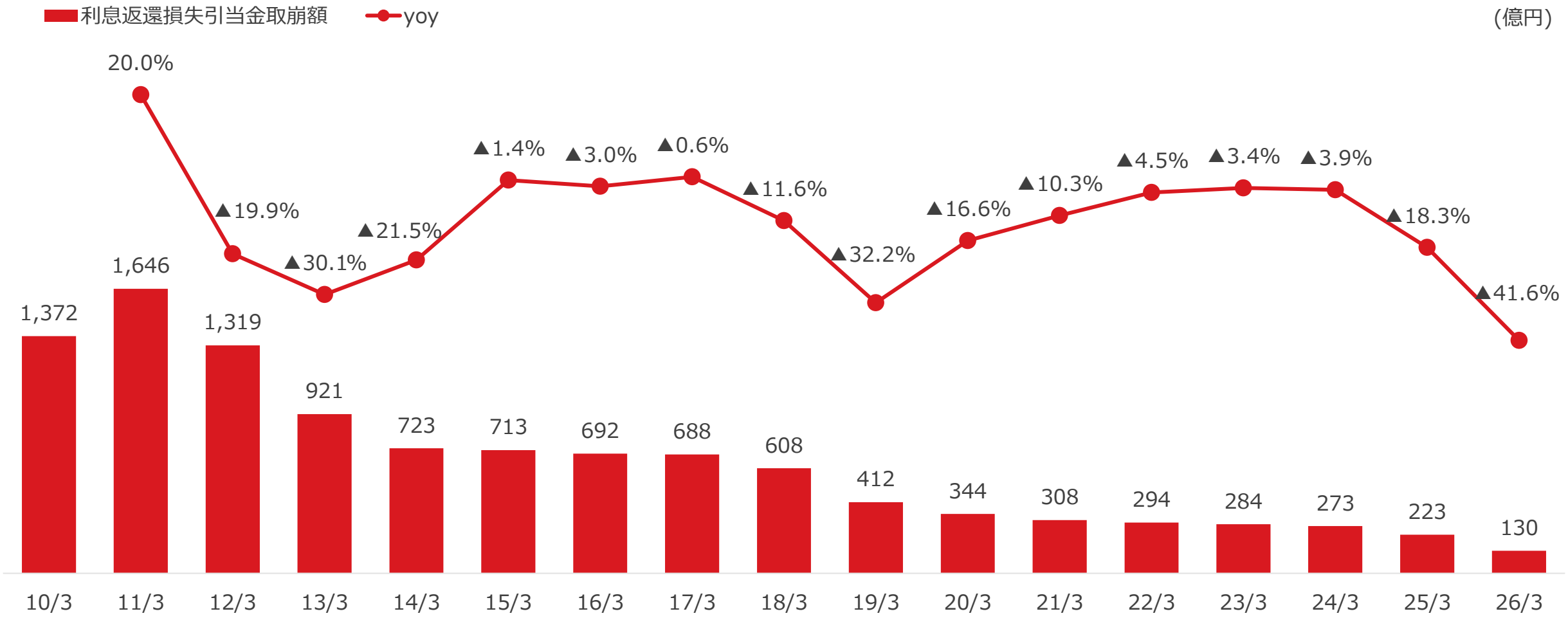
- 2026年3月期の請求件数は、前期比▲20%程度の予想に対して、▲27.1%の7,000件で着地
- 2027年3月期の請求件数は、前期比▲25%程度を予想



＊ 利息返還請求件数は、弁護士・司法書士受任債権発生件数のうち、当社が利息制限法に基づいて再計算した結果、利息返還金が発生する件数（再受任分を含む）

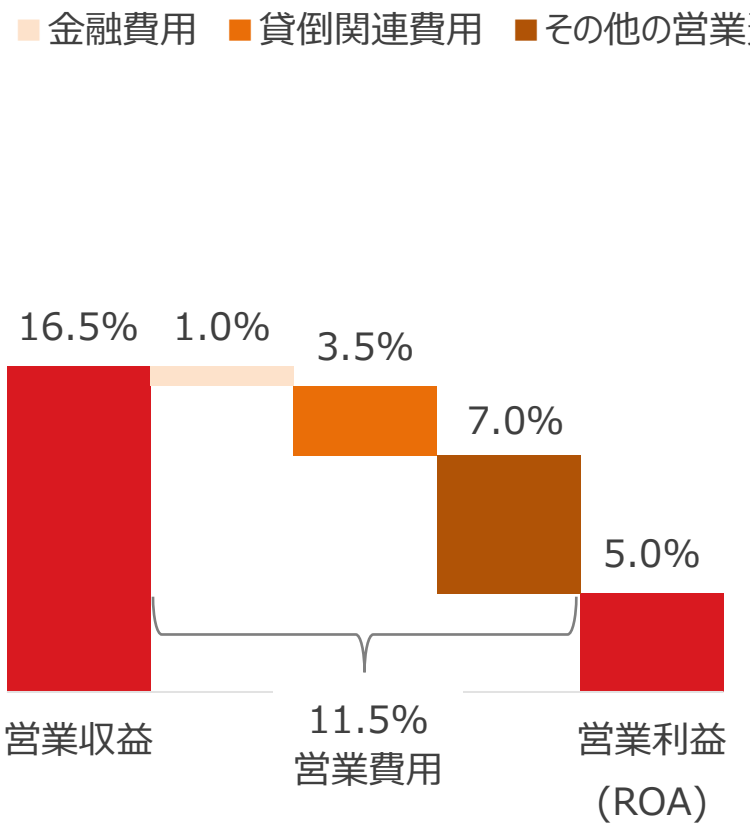
利息返還損失の推移

- 2026年3月期の取崩額は、前期比▲25%程度の予想に対して、▲41.6%の130億円で着地
- 2027年3月期の取崩額は前期比▲25%程度を予想

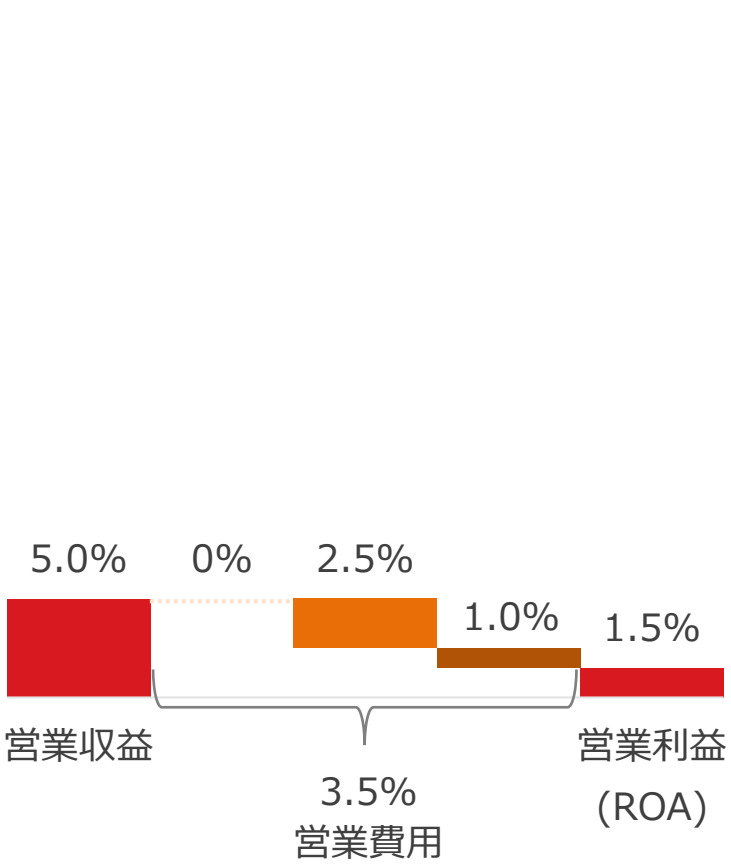


事業別営業債権残高営業利益率（ROA）の目安

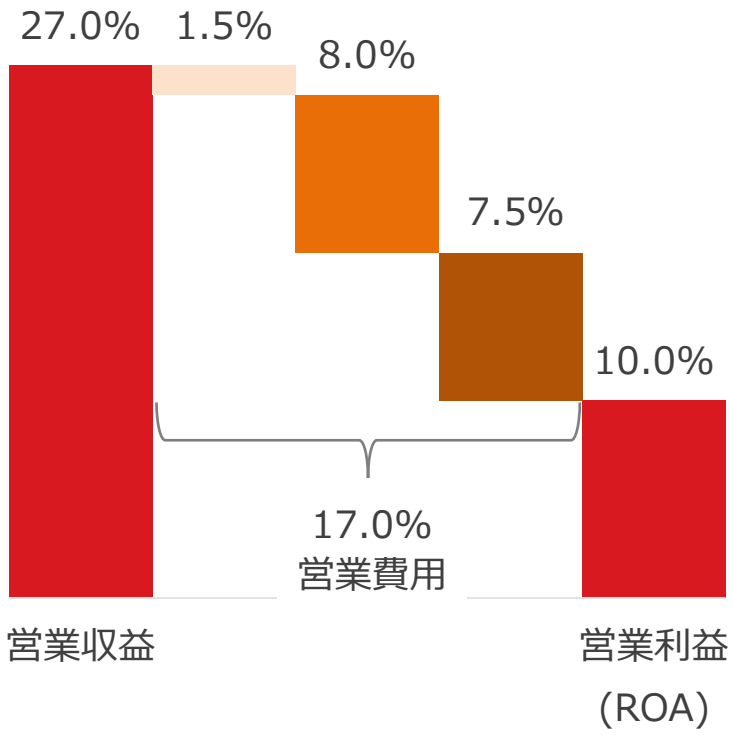
ローン・クレジットカード事業



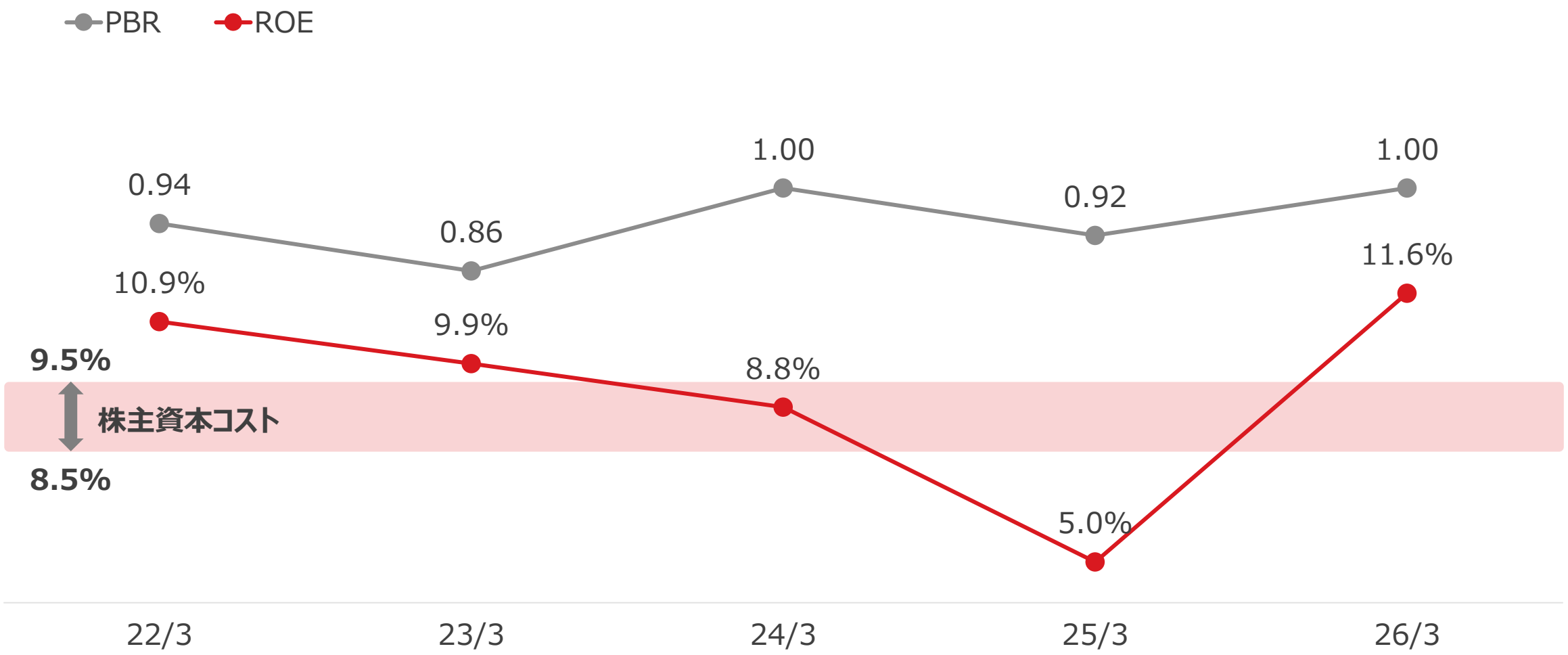
信用保証事業



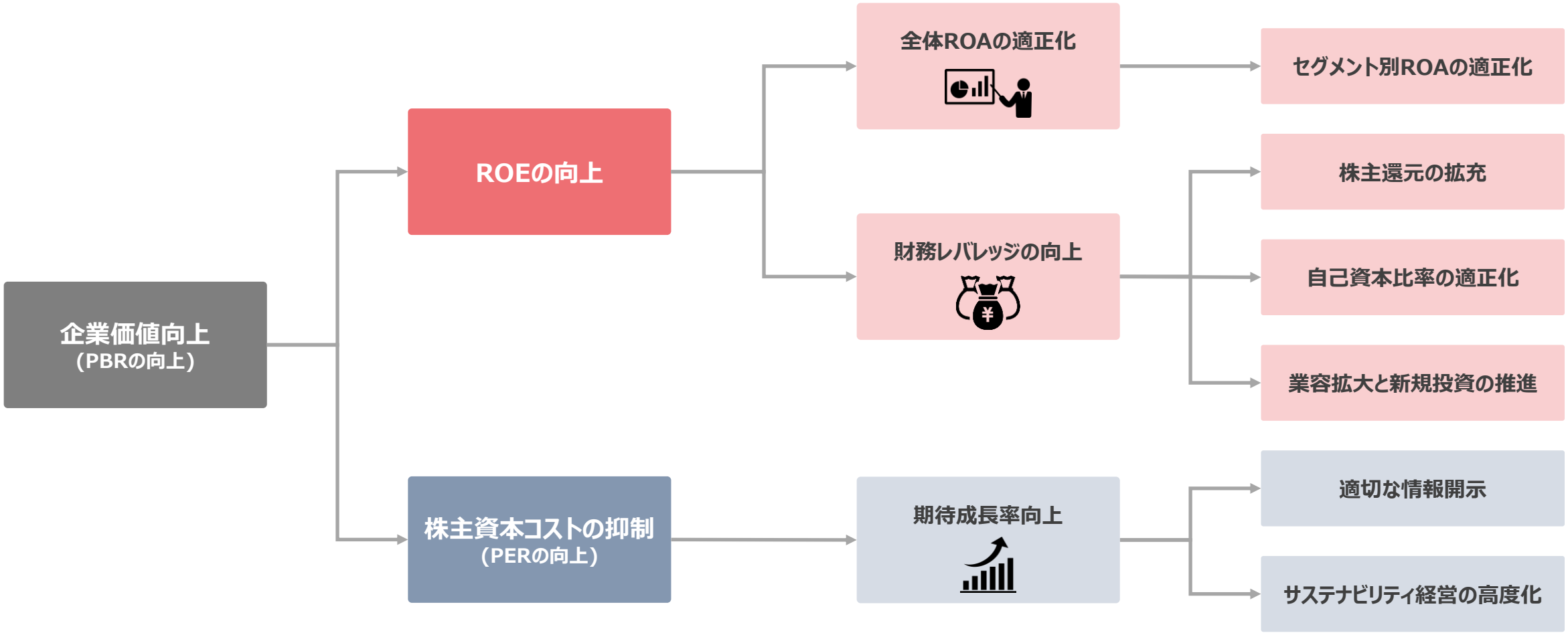
海外金融事業



PBR・ROEの推移


PBR
ROE
0.94
0.86
1.00
0.92
1.00
10.9%
9.9%
8.8%
5.0%
11.6%
9.5%
株主資本コスト
8.5%
22/3
23/3
24/3
25/3
26/3

企業価値向上ロジックツリー



金融詐欺被害防止に向けた取組み

申込時の注意喚起



過去事例をもとに金融詐欺被害が疑われる
お申込みに対し、社員がお客さまへ注意喚起

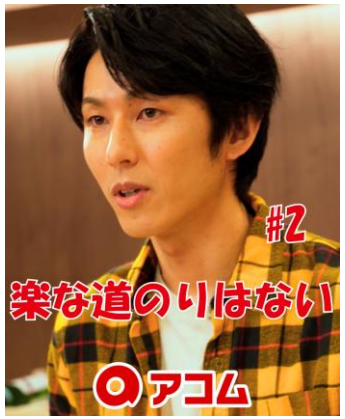
金銭教育・情報発信

金銭教育



若年層を中心に
金融トラブルの事例などを
紹介する金銭教育を実施

SNSでの注意喚起

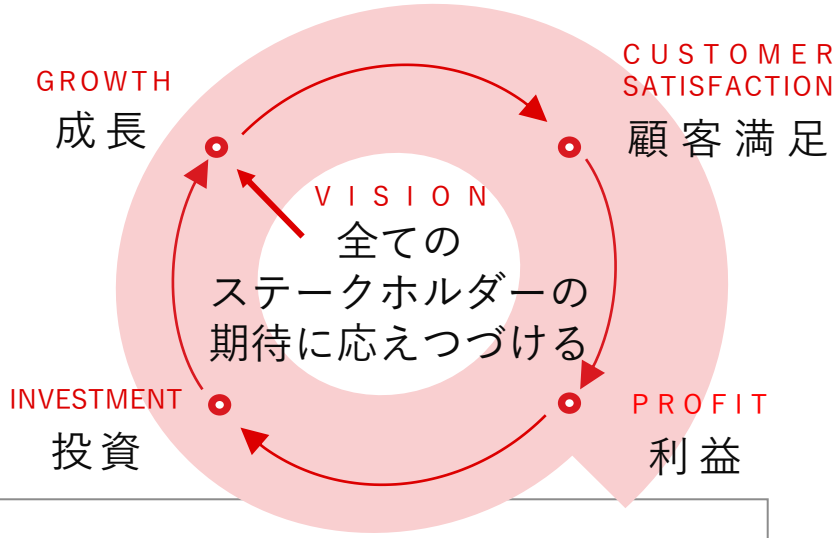


TikTokで金融詐欺被害の
防止を目的とした
ショート動画を配信

中期重点テーマ(2026年3月期～2028年3月期)

中期方針

ビジョン達成に向け、成長サイクルのスピードを上げる



全ての土台	● コンプライアンス・カルチャーの醸成

事業戦略

- パーセプション*の再構築によるブランド力向上
- 応対力と審査スピードの向上による良質な顧客体験の提供
- GeNiEの業務提携先の拡大
- 既存保証提携先との連携強化および新規保証提携先の拡大
- アイ・アール債権回収とのグループ連携強化
- EASY　BUY（タイ）における法規制への適切な対応と良質なポートフォリオの維持
- ACF(フィリピン)、ACM(マレーシア)の早期収益化
- 新たな国への事業進出
- 新規事業創出への挑戦

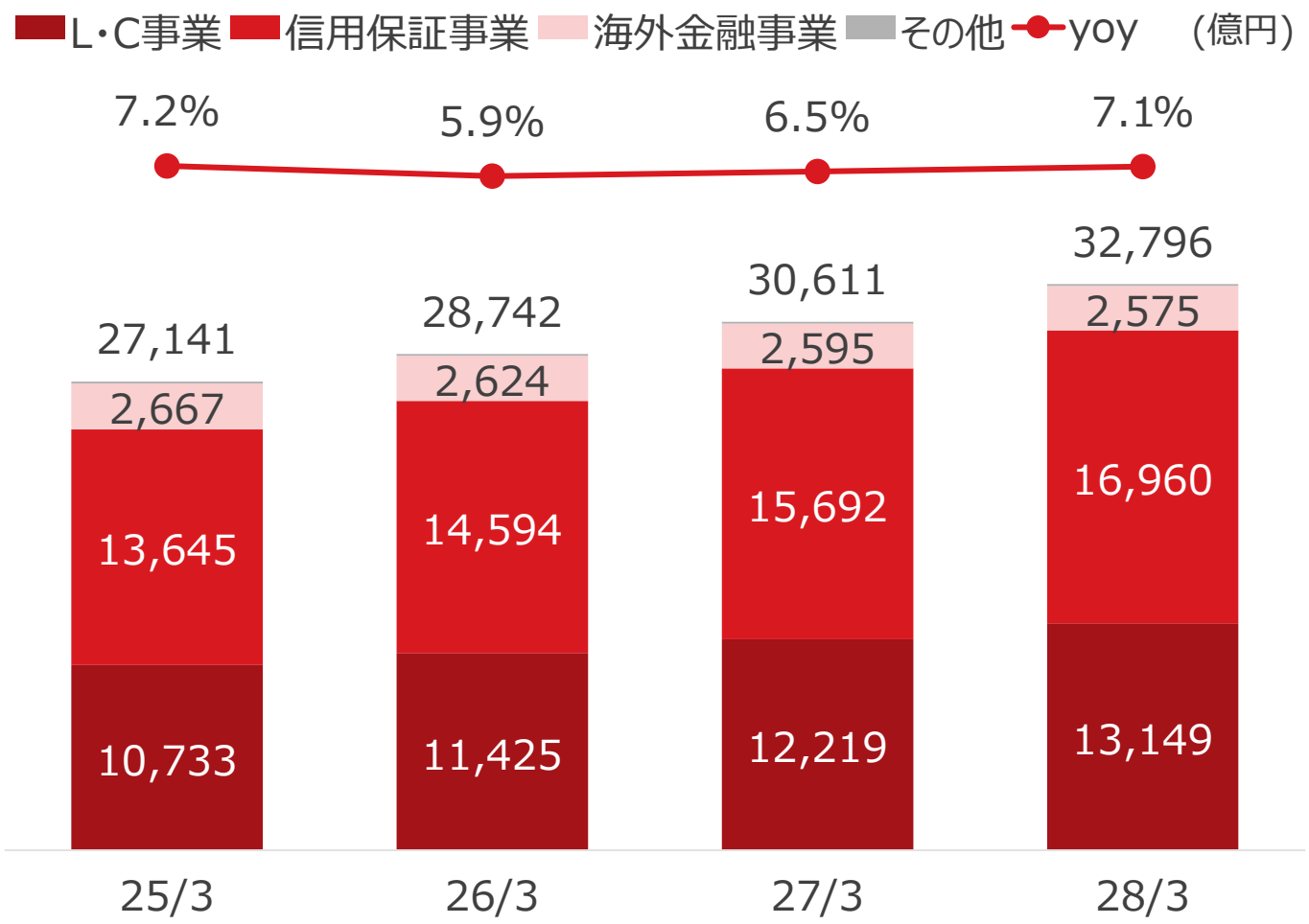
機能戦略

- 環境変化に柔軟かつ迅速に対応できるシステム基盤の構築とサイバーセキュリティの強化
- 採用・育成・定着の強化による人材基盤の確立
- 最適与信の提供と債権保全体制の再構築
- サステナビリティ経営の確立に向けた社内浸透の強化
- リスク管理の高度化とガバナンスの強化
- 業務効率化による生産性の高い業務環境の構築
- 最適な資金調達による安定性維持とコスト効率向上
- データ利活用による意思決定スピードと精度の向上
- 新たな行動指針の実践

＊ パーセプションとは、消費者のイメージや購買決定要因となる企業やブランドの認識・認知、知覚

中期経営計画｜業容

● ペントアップ需要が縮小する中、ブランド力の向上や、新規保証提携の推進などにより、
ローン・クレジットカード事業及び信用保証事業の業容を着実に拡大させ、中計3ヶ年で1.2倍の3.2兆円を目指す

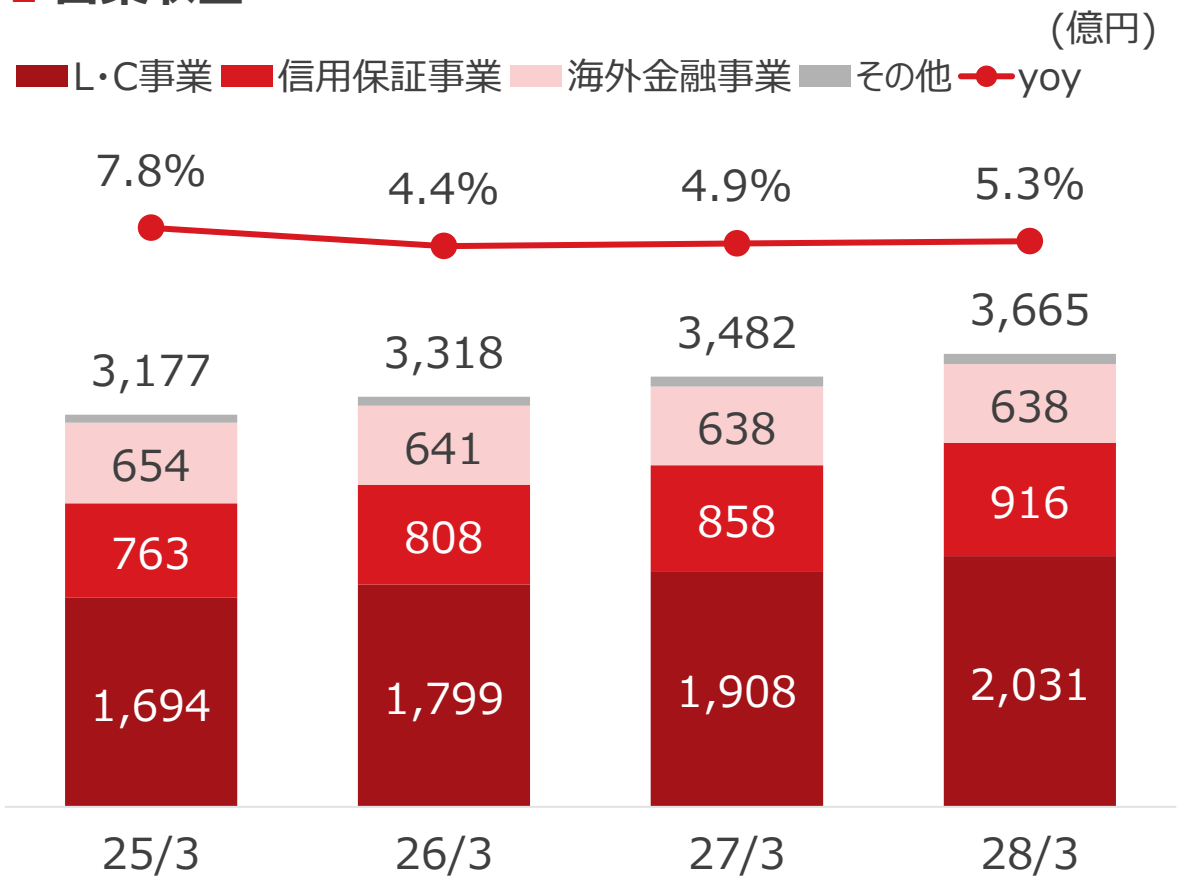


連結 営業債権残高	**3兆2,796億円** (CAGR 5.9%)
ローン・クレジット カード事業	**1兆3,149億円** (CAGR 7.0%)
信用保証事業	**1兆6,960億円** (CAGR 7.5%)
海外金融事業	**2,575億円** (CAGR ▲1.2%)

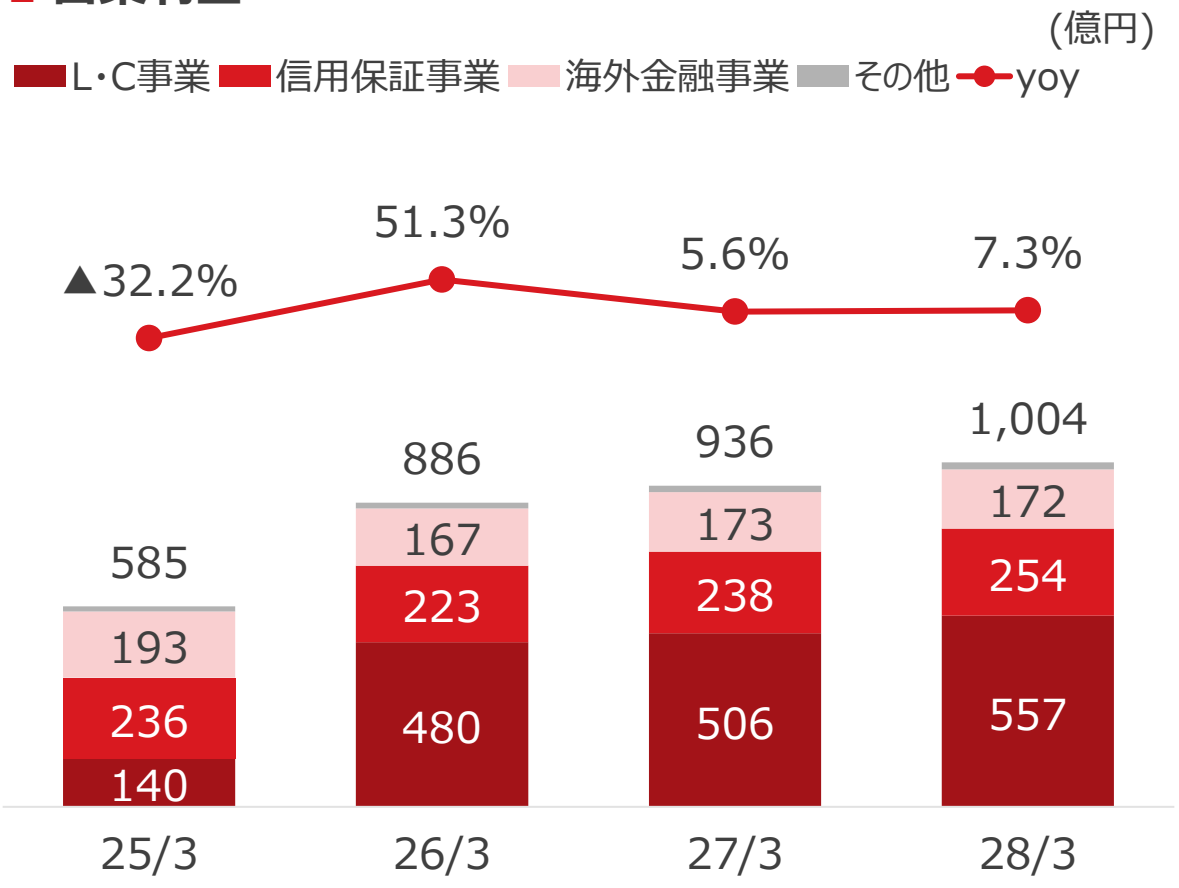
中期経営計画｜業績

- 業容拡大にともない、営業収益は順調に増加する見込み
- 営業利益は、3期連続の増益を目指す

営業収益



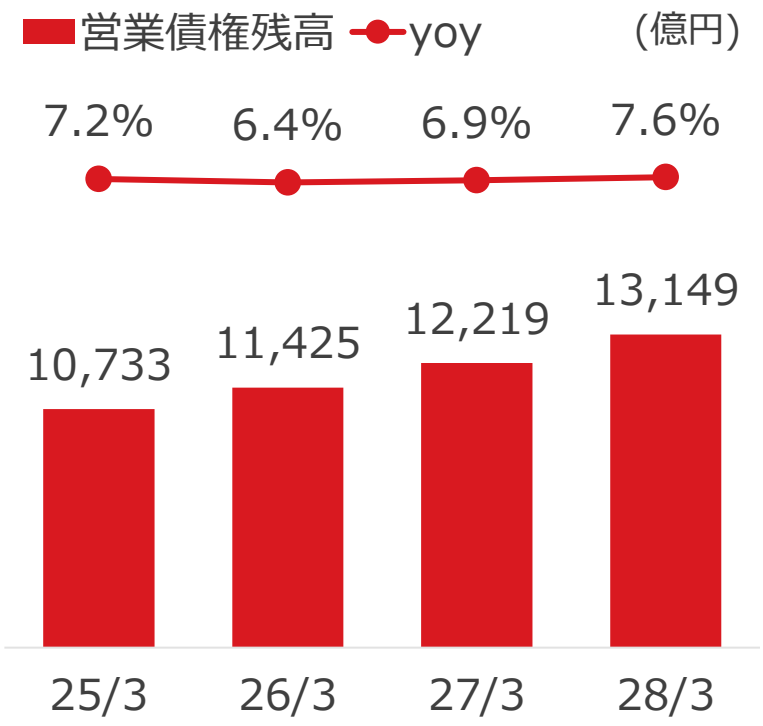
営業利益



中期経営計画｜事業別業容・業績(L・C事業)

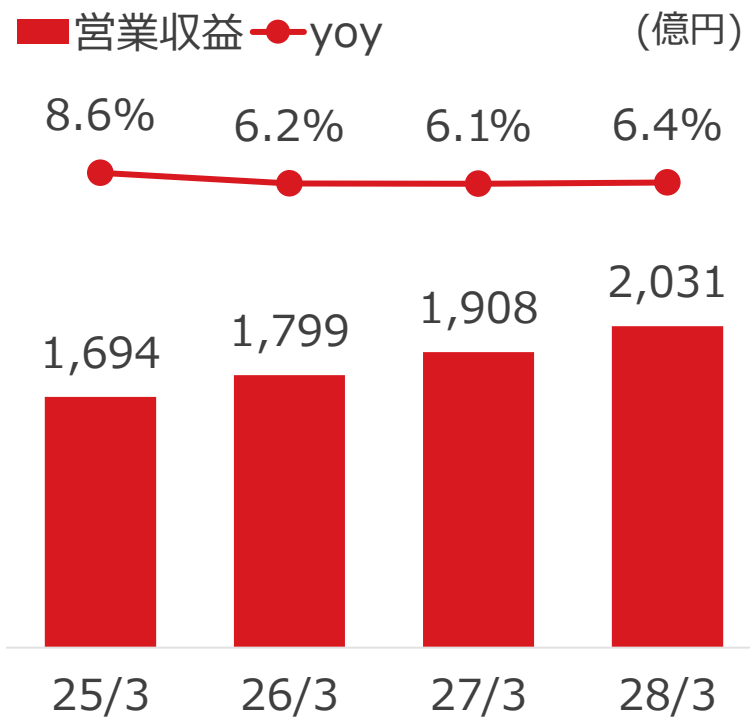
- アコム　：各種営業施策の推進や、ブランド力の向上、良質な顧客体験の提供に注力
- GeNiE：業務提携先の拡大に注力し、エンベデッド・ファイナンス市場におけるリーダーポジションを目指す
- エンベデッド・ファイナンスを含めた営業債権残高は1.3兆円を目指す

営業債権残高



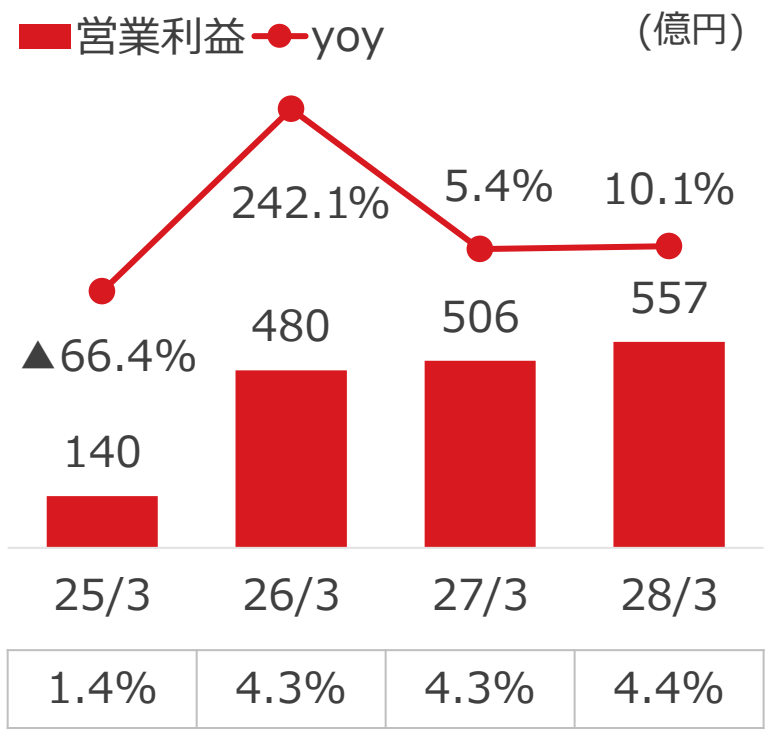
CAGR 7.0%

営業収益



CAGR 6.2%

営業利益



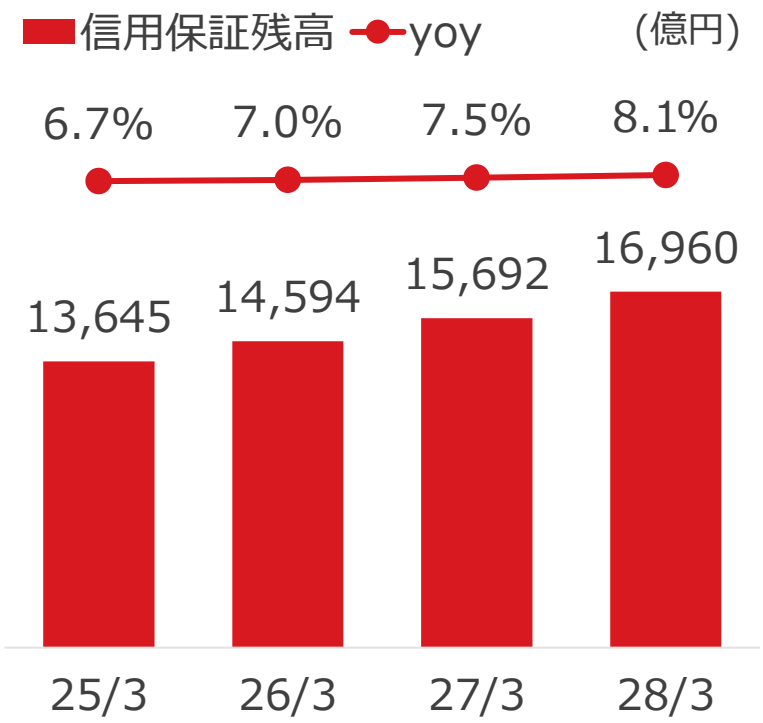
ROA	1.4%	4.3%	4.3%	4.4%

CAGR　58.3%

中期経営計画｜事業別業容・業績(信用保証事業)

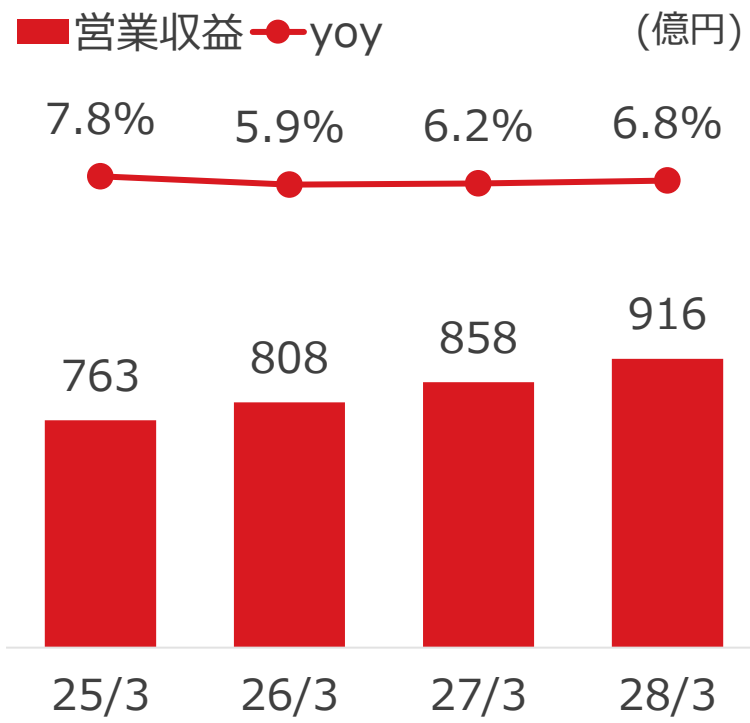
- 新規保証提携先の拡大による業容拡大、既存提携先との関係性強化に注力
- 連結信用保証残高は1.6兆円を目指す

信用保証残高



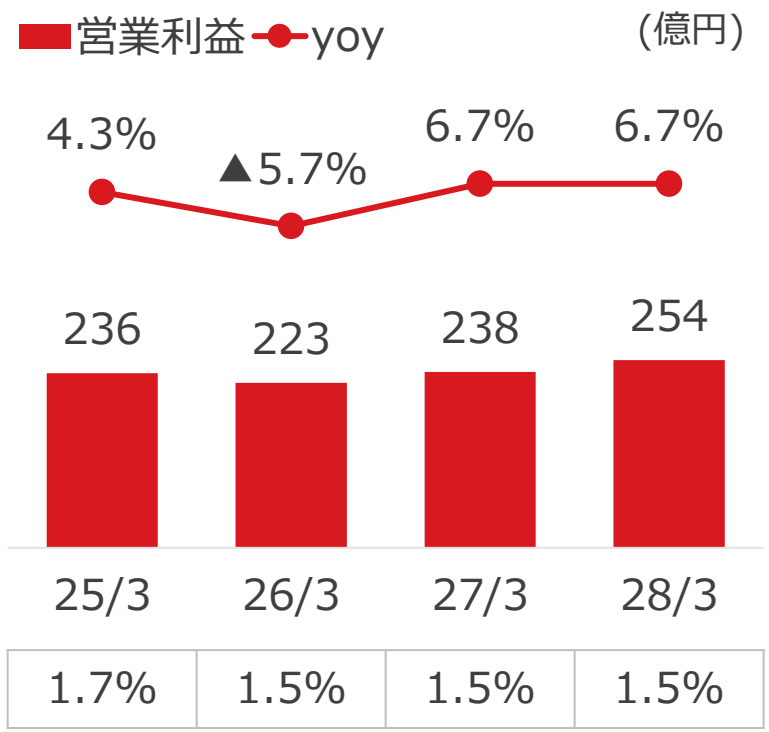
CAGR 7.5%

営業収益



CAGR 6.3%

営業利益



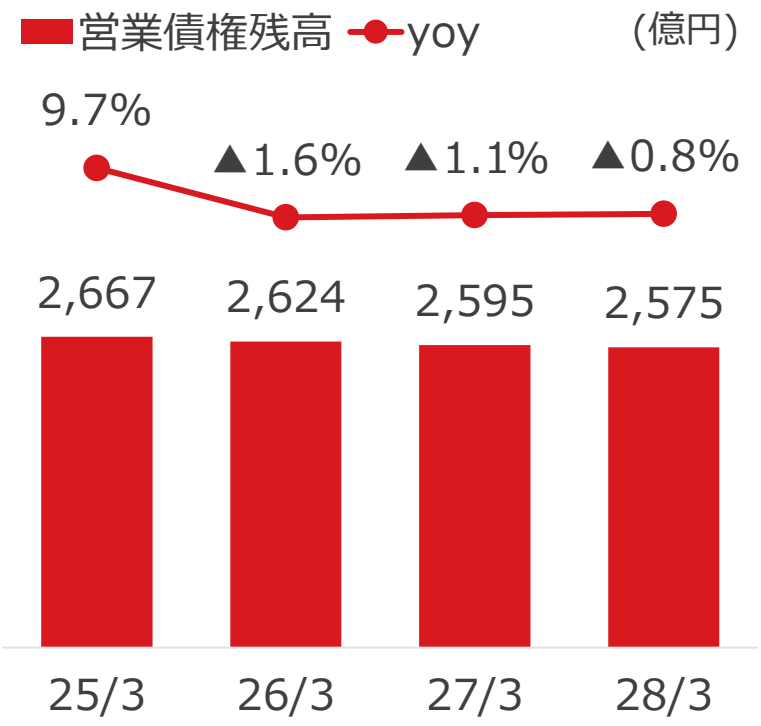
ROA	1.7%	1.5%	1.5%	1.5%

CAGR 2.4%

中期経営計画｜事業別業容・業績(海外金融事業)

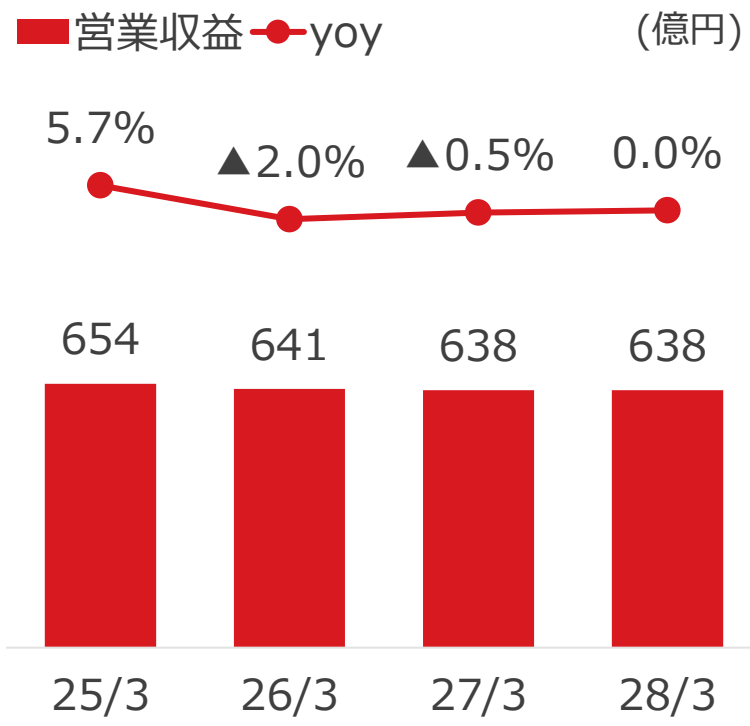
- ACF（フィリピン共和国）：新規獲得の強化や、追加融資に注力し、中計最終年度での収益化を目指す
- ACM（マレーシア）： 集客エリアの拡大と、与信モデルの高度化により、中計最終年度での収益化を目指す

営業債権残高



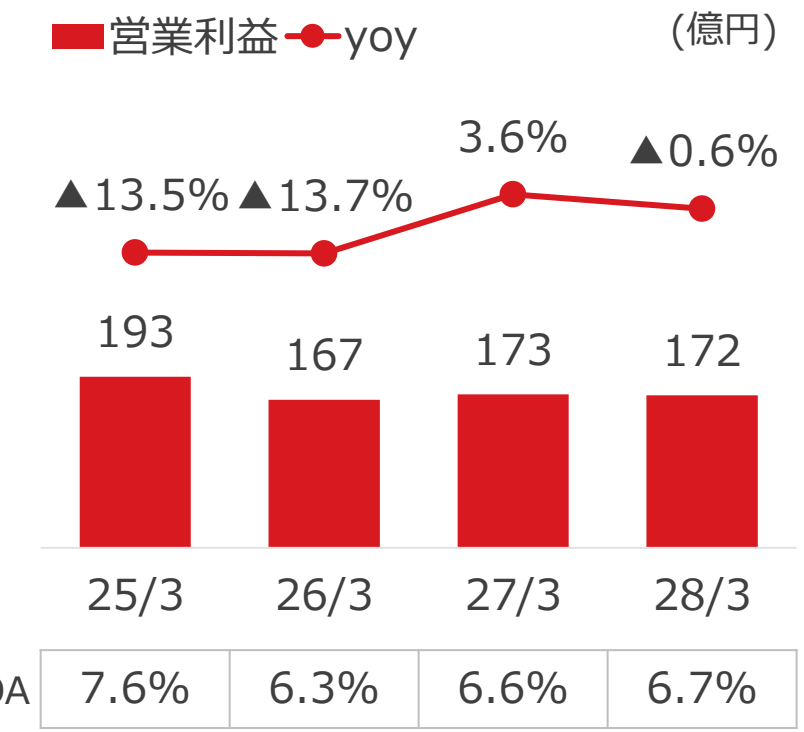
CAGR ▲1.2%

営業収益



CAGR ▲0.8%

営業利益



ROA	7.6%	6.3%	6.6%	6.7%

CAGR ▲3.9%